

Ⅲ 重点施策への関心・認識

鳥取県が重点的に施策を展開している事業についての認識や意識をお聞きます。

<女性の活躍推進について>

問5 あなたは、次の言葉をご存知ですか。それぞれひとつずつに○をしてください。

～「知っている」割合は「ワーク・ライフ・バランス」が約4割、「男女共同参画社会」が約6割～

ワーク・ライフ・バランスについて「知っている」が37.3%、一方「知らない」が24.9となっている。

男女共同参画社会について、「知っている」が58.3%、「知らない」が8.6%となっている。

平成29年度と比較してみると平成30年度では、ワーク・ライフ・バランスを「知っている」が4.3ポイント、男女共同参画社会を「知っている」が4.2ポイントそれぞれ増加している。

年代別でみると、20歳代で「ワーク・ライフ・バランス」を「知っている」が高く、また、20歳代・50歳代で「男女共同参画社会」を「知っている」が高い。

性・年代別でみると、男性の40～50歳代で「ワーク・ライフ・バランス」「男女共同参画社会」を「知っている」が共に高い。女性は20歳代で「ワーク・ライフ・バランス」を「知っている」が高く、20歳代、50歳代で「男女共同参画社会」を「知っている」が高くなっている。

図25 あなたは次の言葉をご存知ですか(n=1,324)

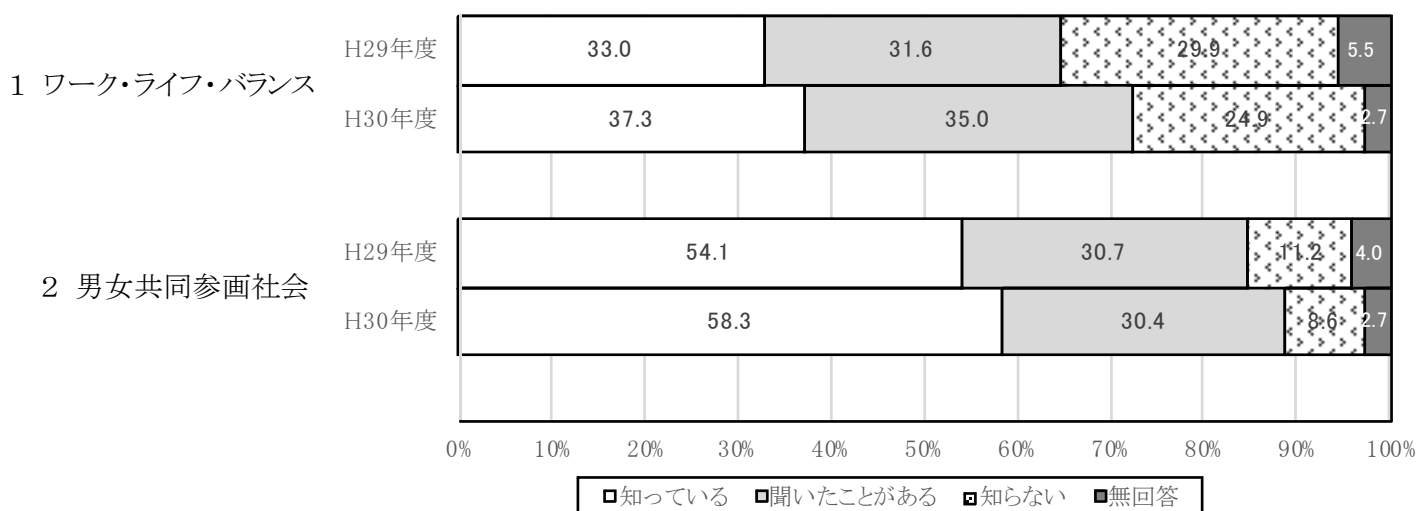


図26 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っているか

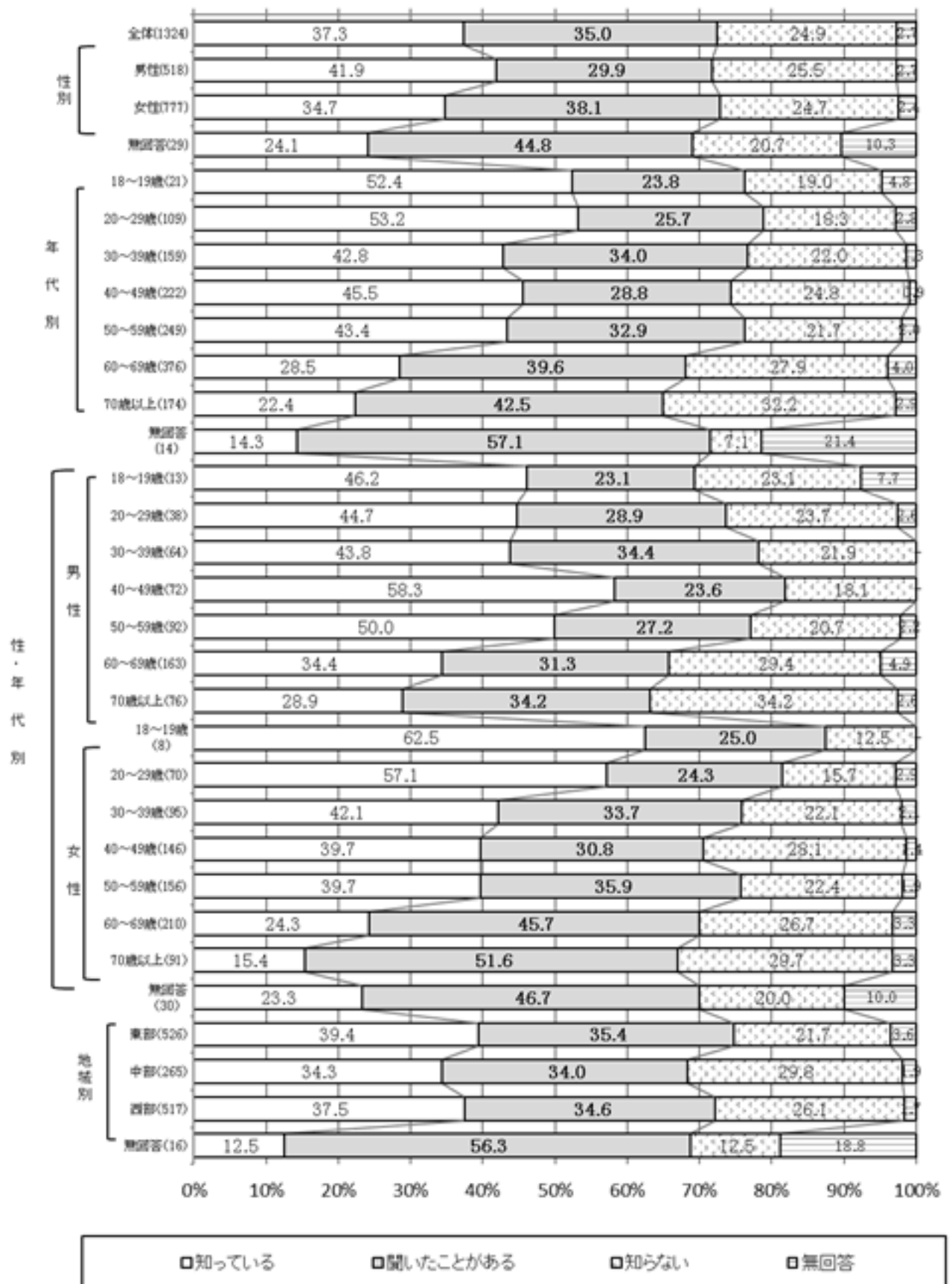
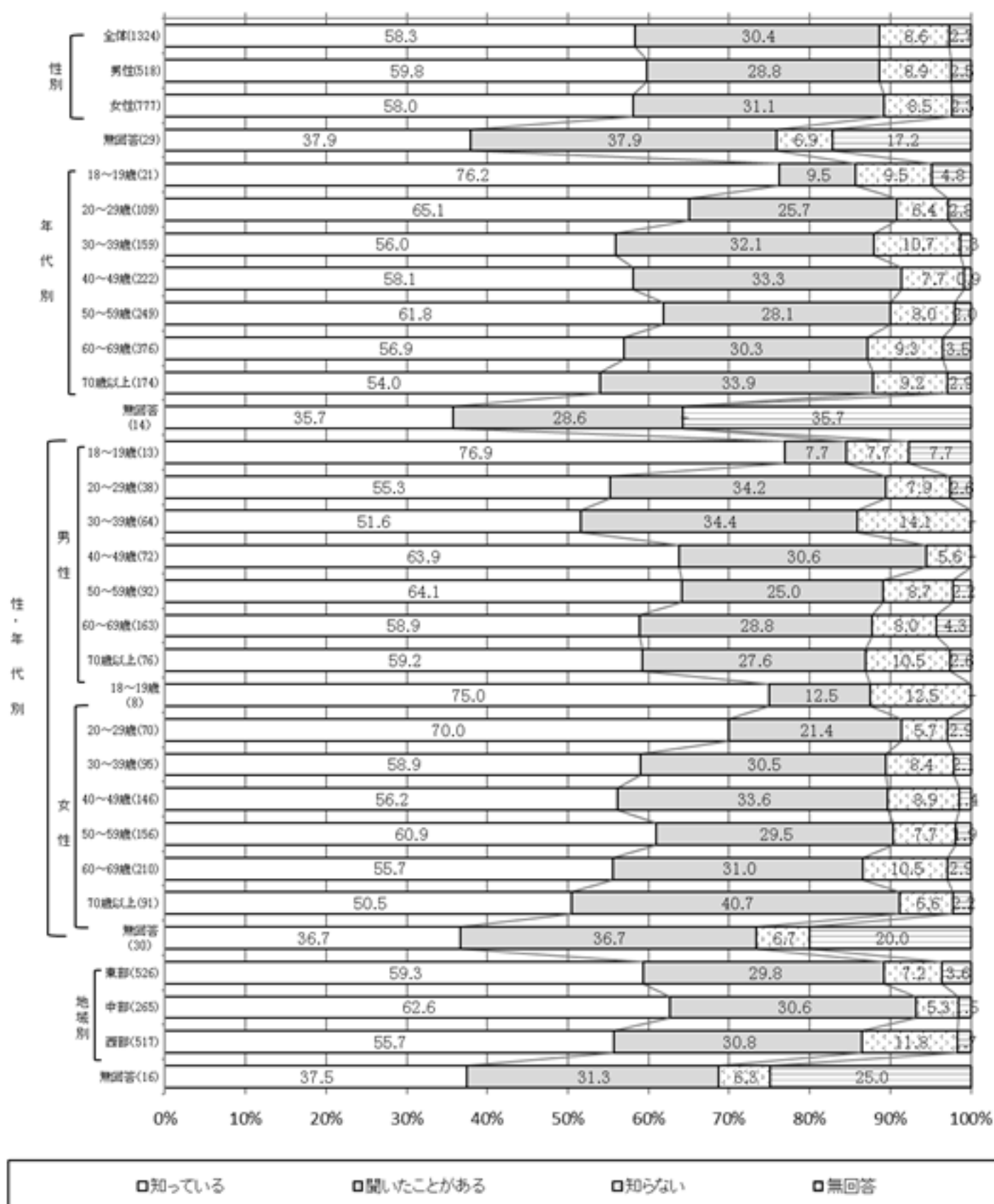


図27 「男女共同参画社会」という言葉を知っているか



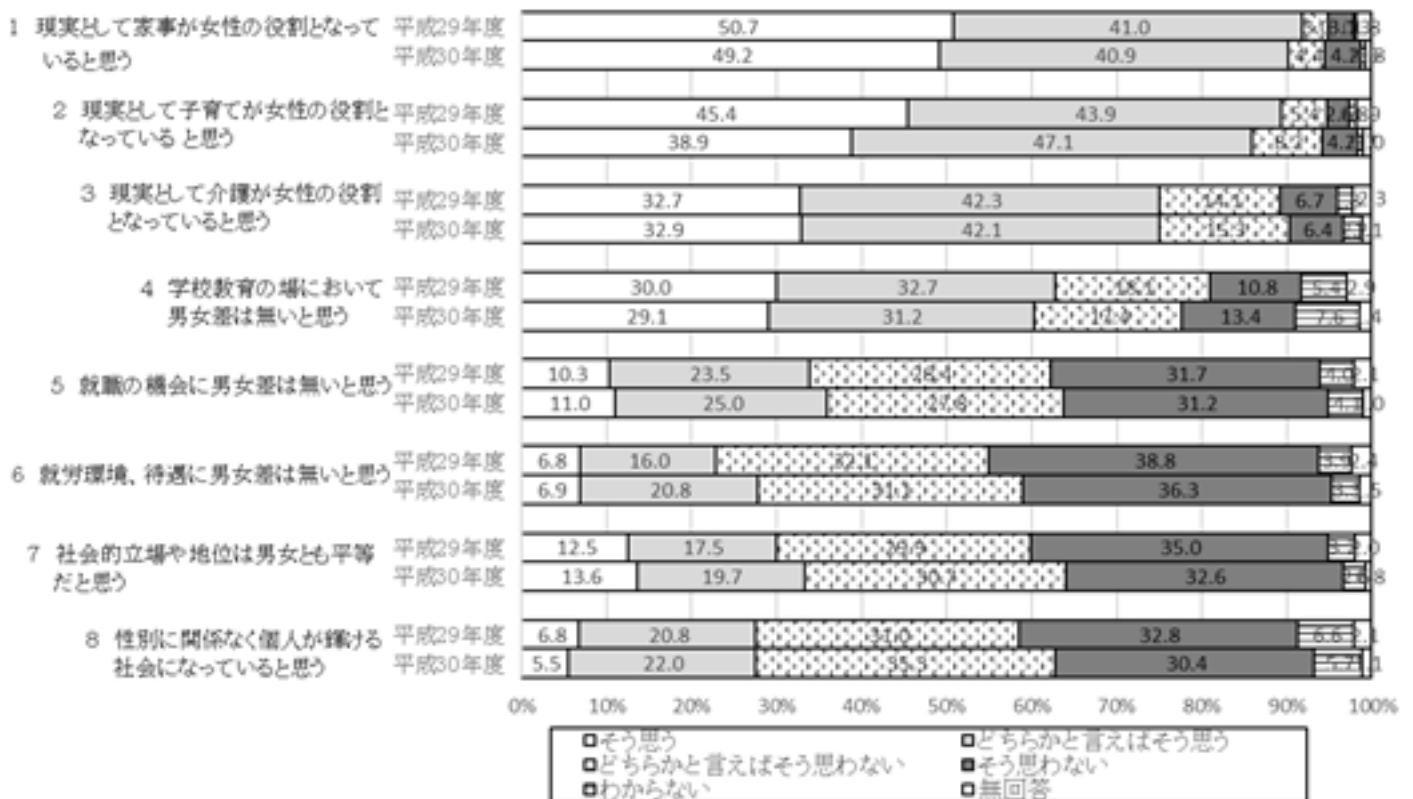
問6 男女に関する役割などについてお聞きます。次の項目(設問)についてどう思われますか、項目ごとに表中のいずれかに○を記入してください。

～現実として「家事、子育て、介護が女性の役割」となっていると思う人が多数～

男女に関する役割などについて、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせると「現実として家事が女性の役割となっている」が90.1%と最も割合が高く、次いで「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」が86.0%、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」が75.0%、「学校教育の場において男女差は無いと思う」が60.3%となっている。

平成29年度と比較してみると、平成30年度では「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は「就労環境、待遇に男女差は無いと思う」が4.9ポイント増加、「社会的立場や地位は男女とも平等だと思」が3.3ポイント増加、「就職の機会に男女差は無いと思う」が2.2ポイント増加している。一方、「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」が3.3ポイント減少、「学校教育の場において男女差は無いと思う」が2.4ポイント減少、「現実として家事が女性の役割となっている」が1.6ポイント減少している。

図28 男女に関する役割



問7 女性が出産後も離職することなく、子育てと仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策は何だと思えますか。(〇は3つまで)

～「育児による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済支援(補助金制度)」「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が上位～

女性が出産後も離職することなく、子育てと仕事を両立するために、行政が行うべき施策は、「育児による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済支援(補助金制度)」が52.1%と最も割合が高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」が50.5%、「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が49.4%と続き、『企業への経済的支援(補助金)と労働環境整備』を行うべきとの意見が多くみられる。

年代別でみると、20～50歳代で「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」、20～30歳代で「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が高い。

性・年代別でみると、男性の20～50歳代で「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」、30～60歳代では「育児による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済支援(補助金制度)」、20～30歳代で「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が高い。女性では20～50歳代で「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」の割合が高くなっている。

図29 子育てと仕事を両立するために、行政が行うべき施策(n=1,324)

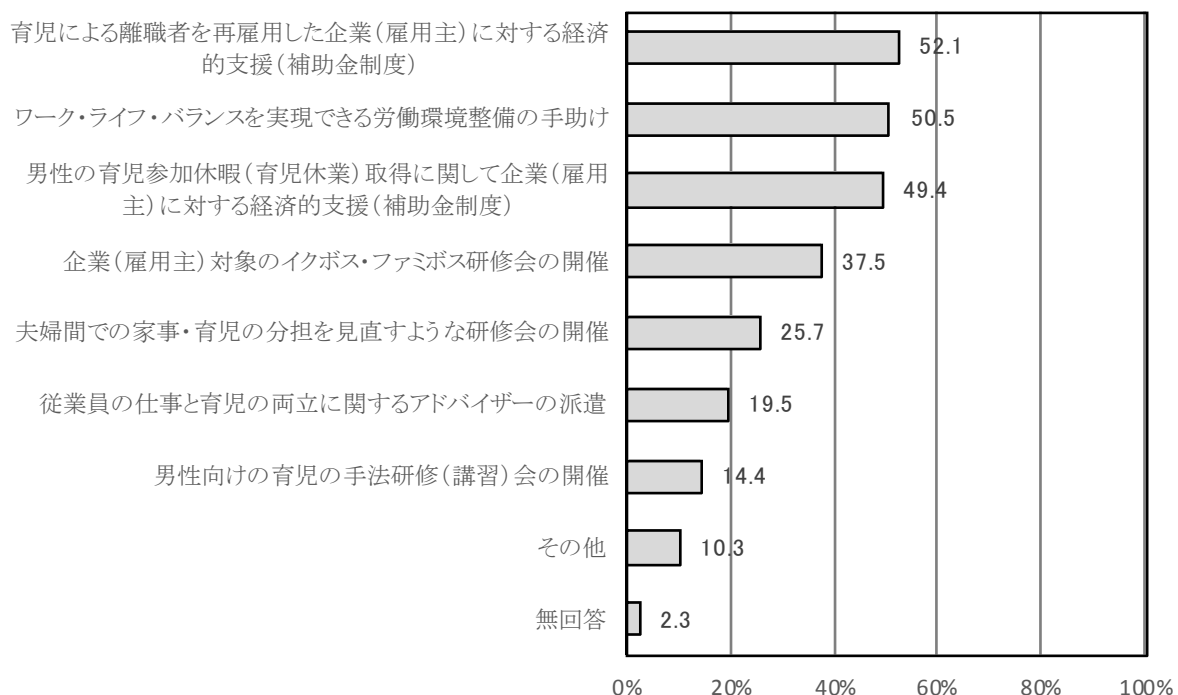
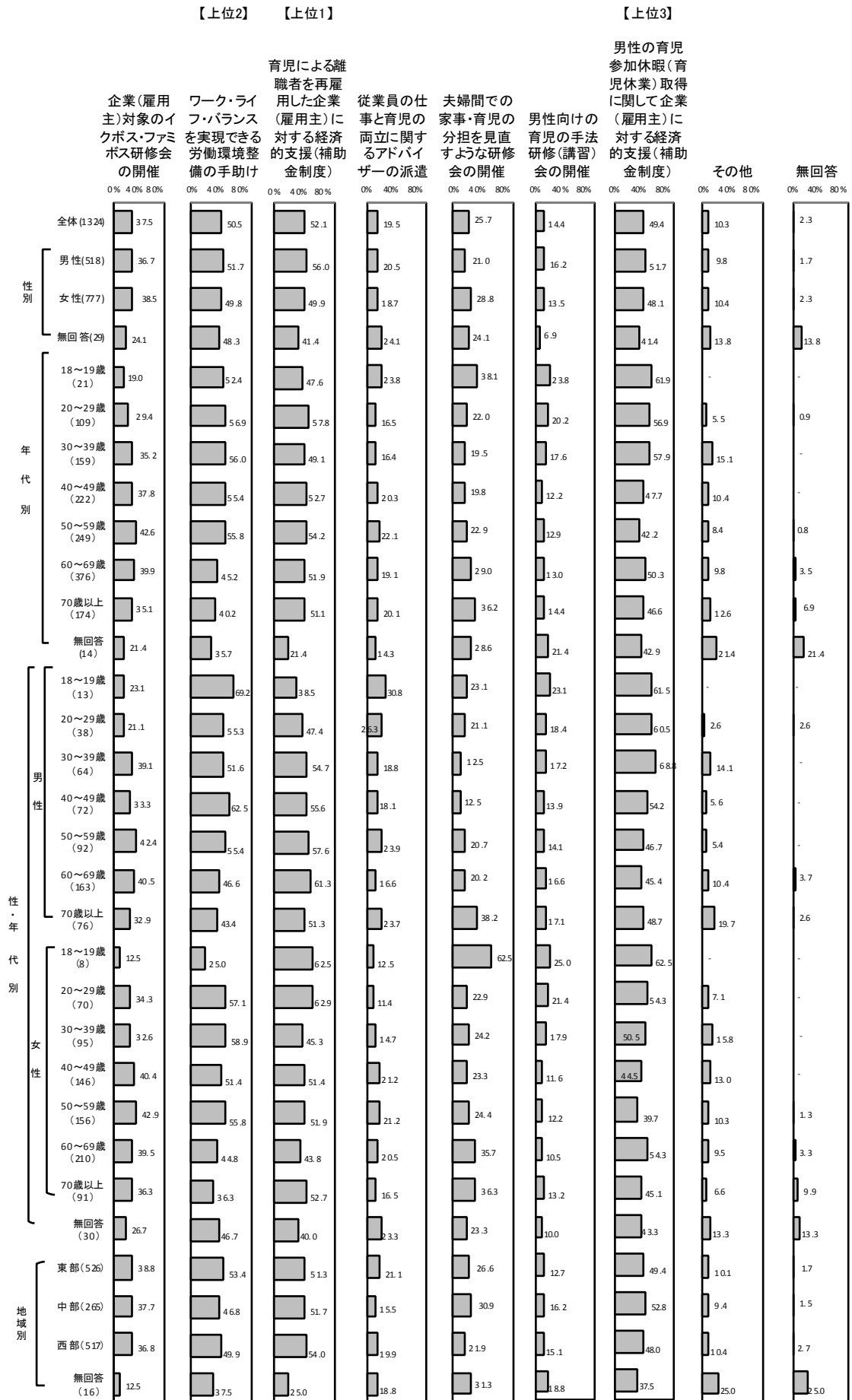


図 30 女性が出産後も離職することなく、子育てと仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策



問8 介護と仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策は何だと思えますか。

(○は3つまで)

～「介護による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」「男性の介護休暇(介護休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」が上位～

介護と仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策は、「介護による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が51.5%と最も割合が高く、次いで「男性の介護休暇(介護休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が49.4%、「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」が46.5%と続き、『企業への経済的支援(補助金制度)と労働環境整備』に対する意見が多くみられる。

年代別でみると、20～50歳代は「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の30～50歳代は「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」「男性の介護休暇(介護休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」の割合が高い。女性の20～50歳代は「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」「介護による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」の割合が高くなっている。

図31 介護と仕事を両立するために、行政が行うべき施策(n=1,324)

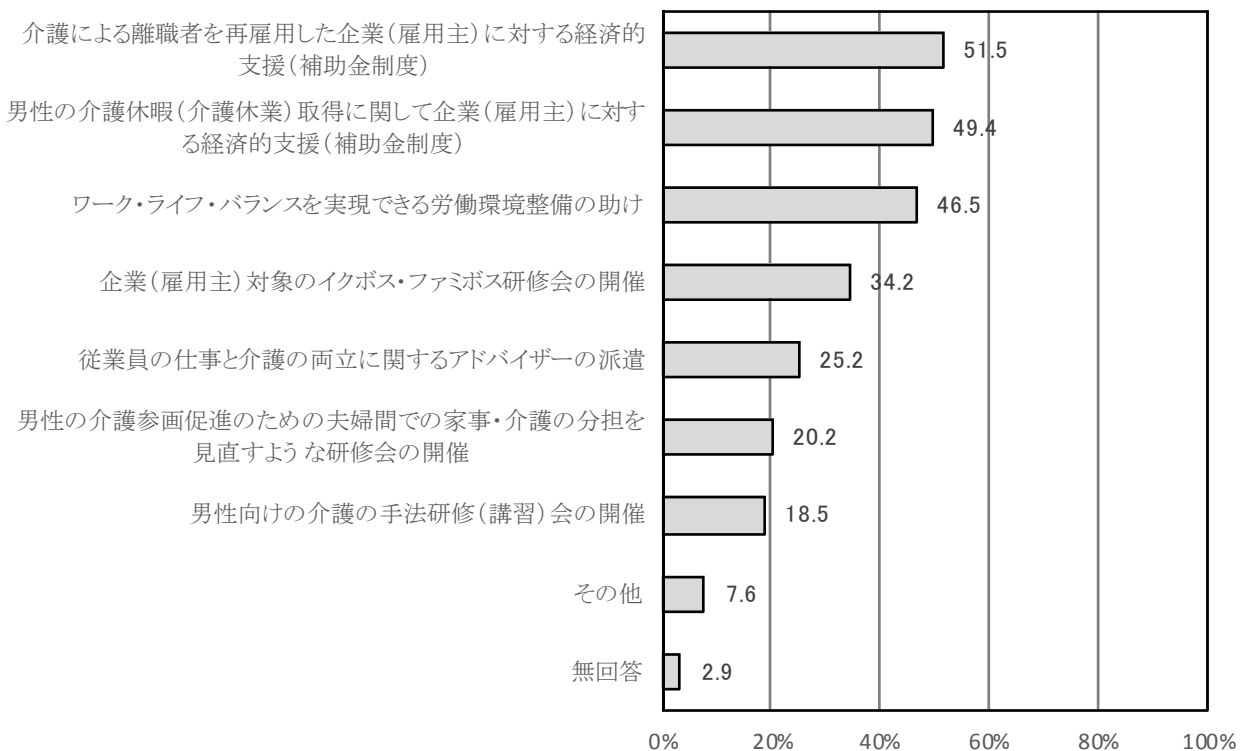
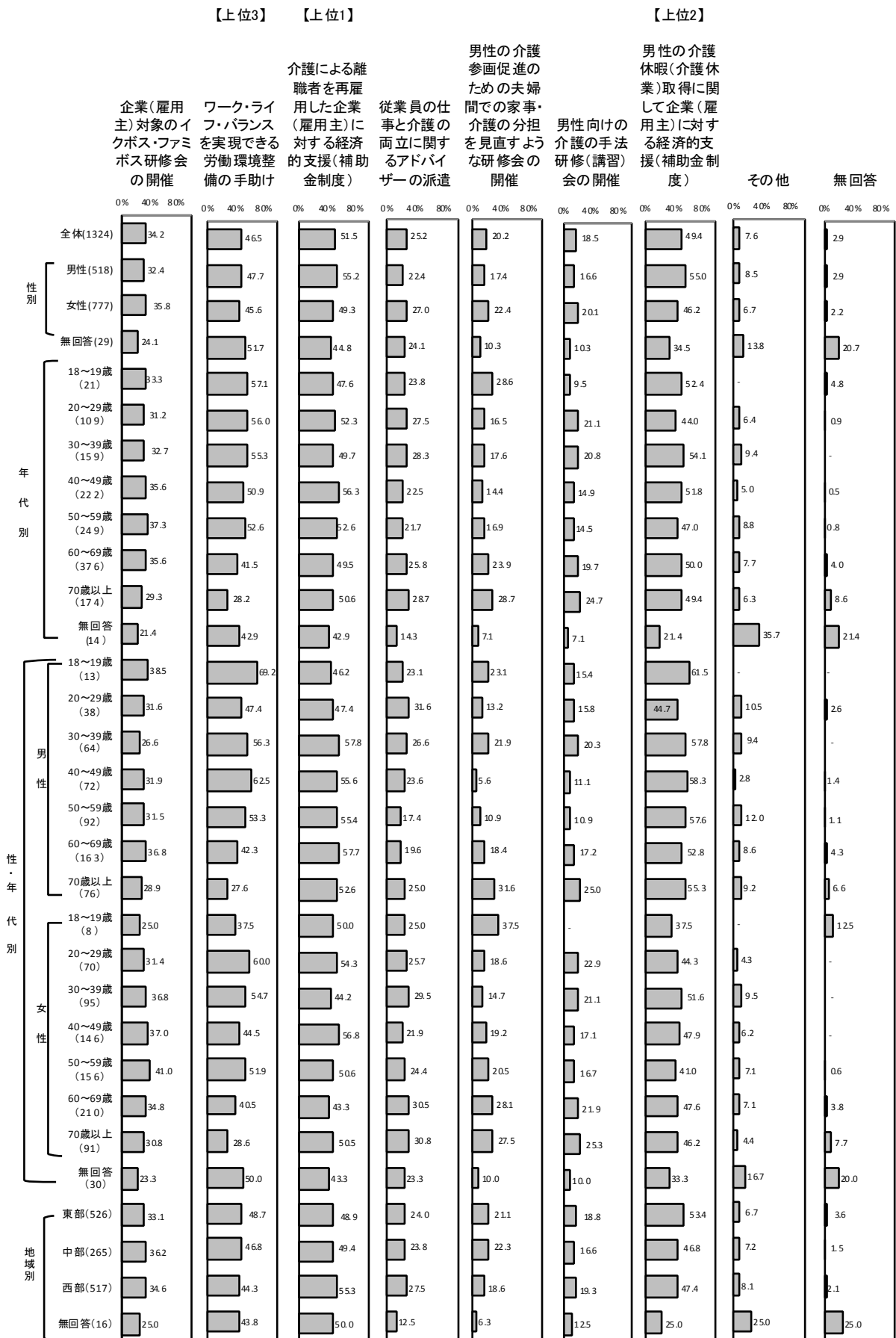


図 32 介護と仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策



問9 イクボス・ファミボスの取組を推進するために、行政が行うべき必要な施策

～「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」「企業(雇用主)対象のイクボス・ファミボス研修会等の開催」「イクボス・ファミボスとしての取組の具体例(優良事例)の情報提供」が上位～

イクボス・ファミボスの取組を推進するために、行政が行うべき必要な施策について、「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」が55.3%と最も割合が高く、次いで「企業(雇用主)対象のイクボス・ファミボス研修会等の開催」が46.4%、「イクボス・ファミボスとしての取組の具体例(優良事例)の情報提供」が44.2%となっている。

年代別でみると、20～30歳代は「イクボス・ファミボスとしての取組の具体例(優良事例)の情報提供」、30～50歳代では「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の20～30歳代、50～70歳以上で「イクボス・ファミボスとしての取組の具体例(優良事例)の情報提供」「企業(雇用主)対象のイクボス・ファミボス研修会等の開催」、30～50歳代で「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」の割合が高い。女性の20～30歳代は「イクボス・ファミボスとしての取組の具体例(優良事例)の情報提供」、30～60歳代は「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」の割合が高くなっている。

図33 イクボス・ファミボスの取組を推進するために、行政が行うべき施策(n=1,324)

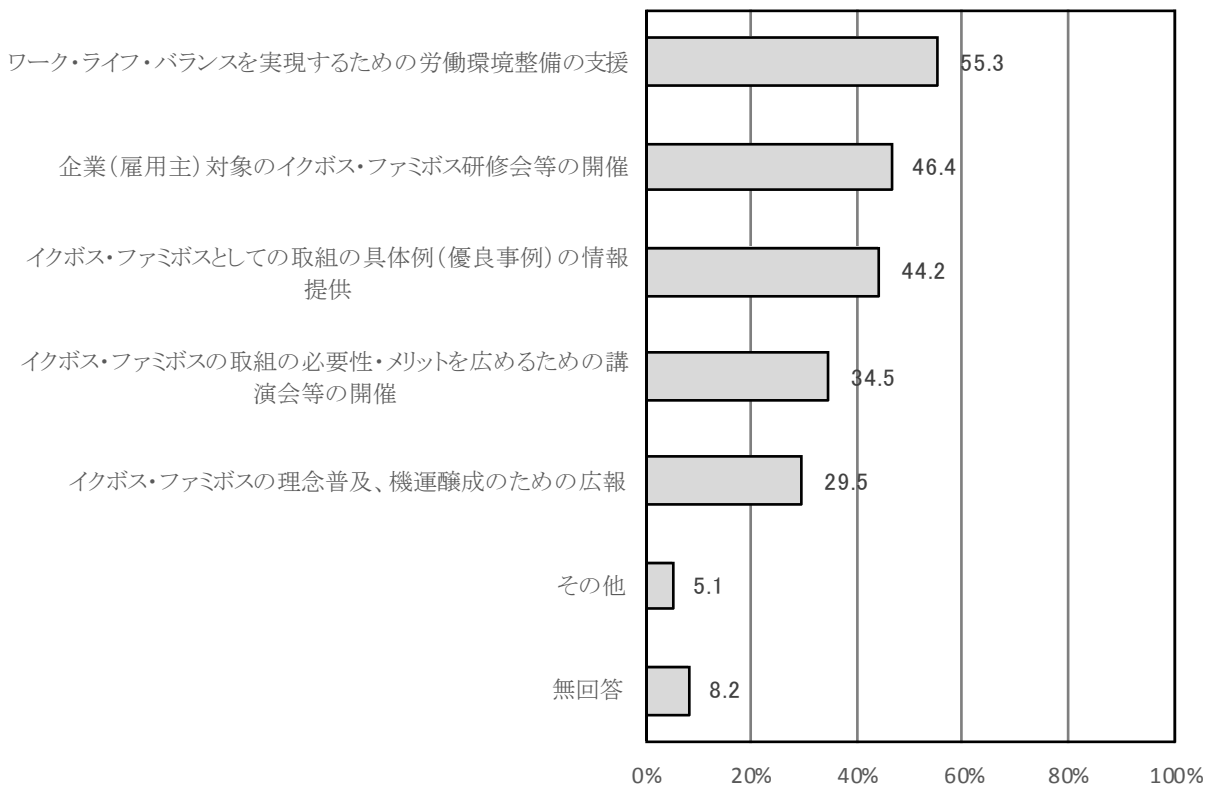
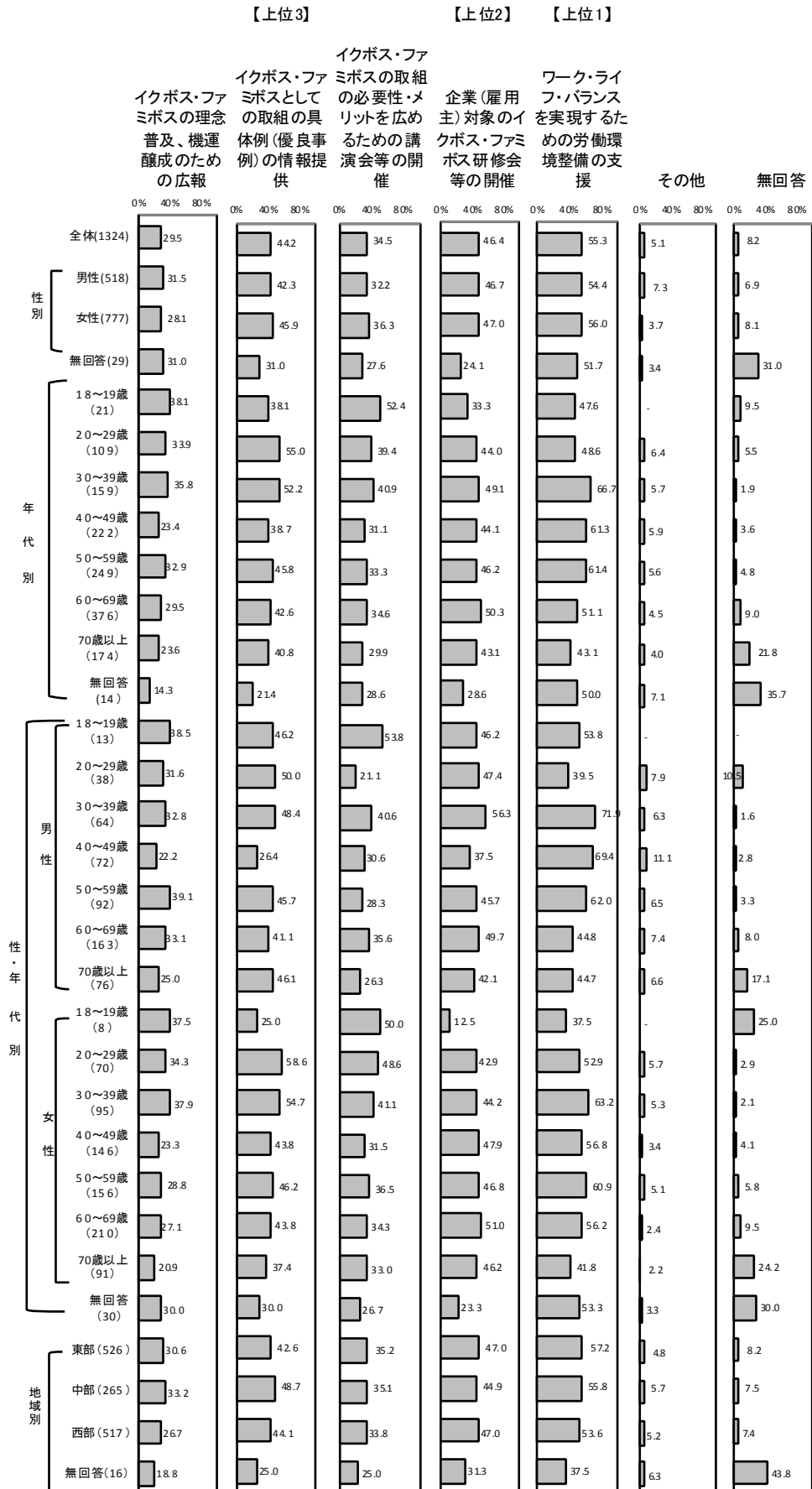


図 34 イクボス・ファミボスの取組を推進するために、行政が行うべき必要な施策



<鳥取県中部地震からの復興・復旧について>

問10 復興・復旧が進んでいると思いますか。

～「進んでいる」、「やや進んでいる」の回答が約5割、中部では7割以上～

復興・復旧が進んでいるかについて、「進んでいる」が17.1%、「やや進んでいる」が33.9%と、進んでいる(進んでいる・やや進んでいるの計)と感じている人が51.0%と約半数となっている。

一方、「あまり進んでいない」が5.9%、「全く進んでいない」が0.2%と進んでいないとの意見は6.1%にとどまっている。

年代別でみると、30歳代が進んでいる(進んでいる・やや進んでいるの計)との回答が高い。

性・年代別でみると、男性では20歳代、女性では30歳代が進んでいる(進んでいる・やや進んでいる)との回答が高くなっている。

地域別でみると、中部が進んでいる(進んでいる・やや進んでいるの計)との回答が74.0%と他地域と比較し圧倒的に高い。

図35 復興・復旧が進んでいるか(n=1,324)

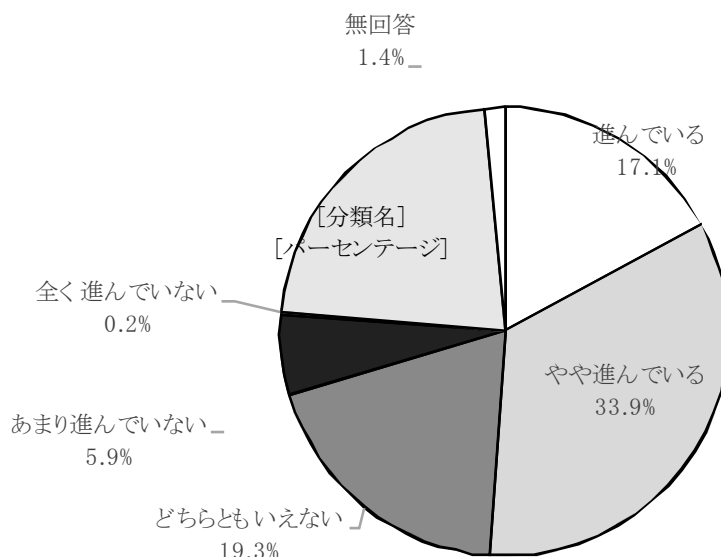
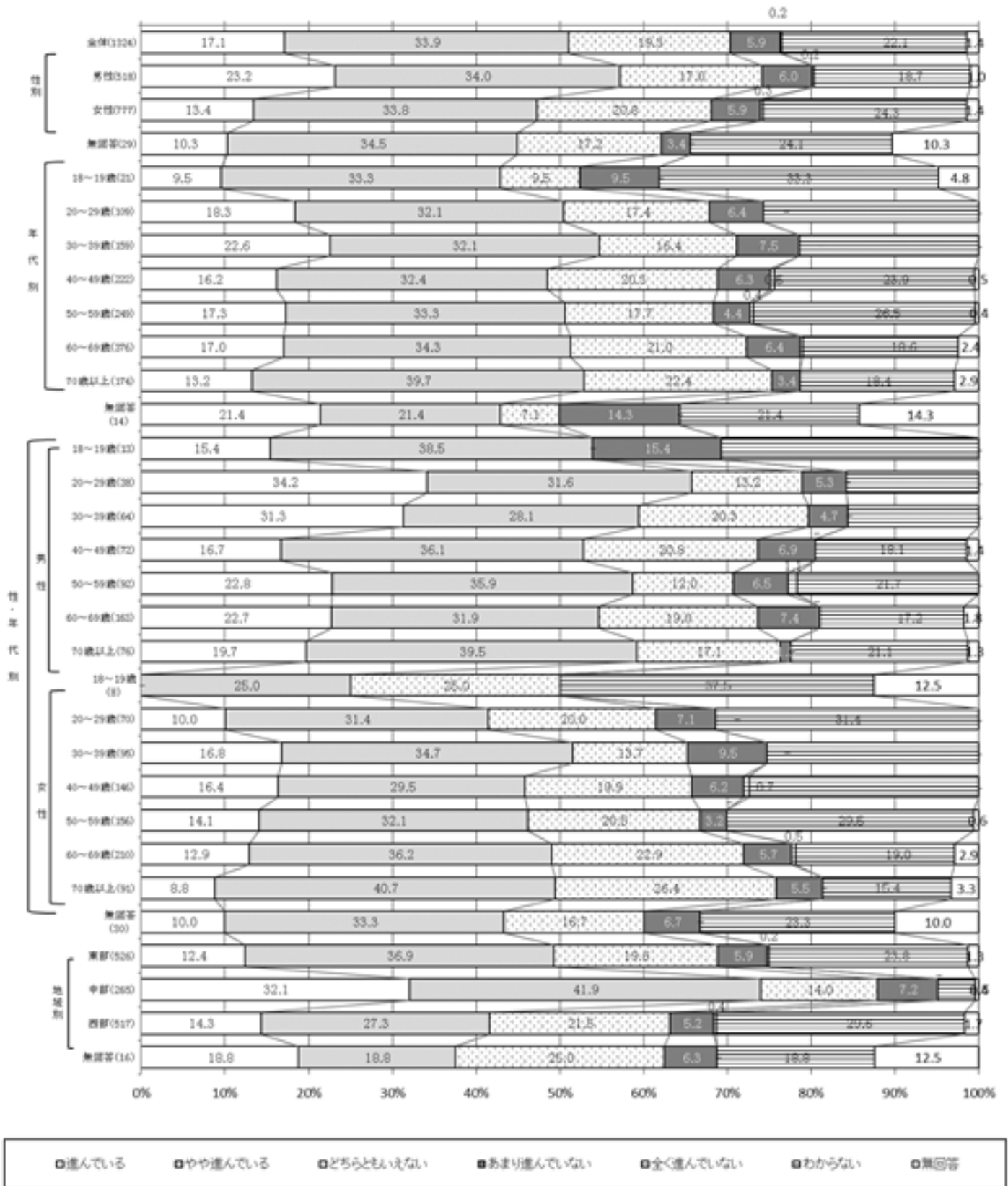


図 36 復興・復旧が進んでいると思いますか



問11 どの項目が進んでいないと思いますか。
(問10で「4 あまり進んでいない」「5 全く進んでいない」と回答された方)

～「住宅、建物の修繕」が高い～

復興・復旧に関してどの項目が進んでいないと思うかは、「住宅、建物の修繕」が77.8%ともっとも割合が高く、次いで「被災者の生活再建」が44.4%、「震災後へのまちづくり支援(施設整備の支援など)」が42.0%となっている。

年代別でみると、30歳代、50歳代で「被災者の生活再建」、30歳代、60歳代で「震災後へのまちづくり支援(施設整備の支援など)」が高い。「住宅、建物の修繕」はどの年代においても高くなっている。

性・年代別でみると、男性では30歳代以上で「住宅、建物の修繕」、30歳代、50歳代で「被災者の生活再建」、30歳代で「震災後へのまちづくり支援(施設整備の支援など)」が高い。女性では30歳代、70歳以上で「被災者の生活再建」、30歳代、60歳代で「震災後へのまちづくり支援(施設整備の支援など)」が高くなっている。

地域別でみると、中部では「住宅、建物の修繕」が高くなっている。

図37 復興・復旧が進んでいない項目
(n=81)

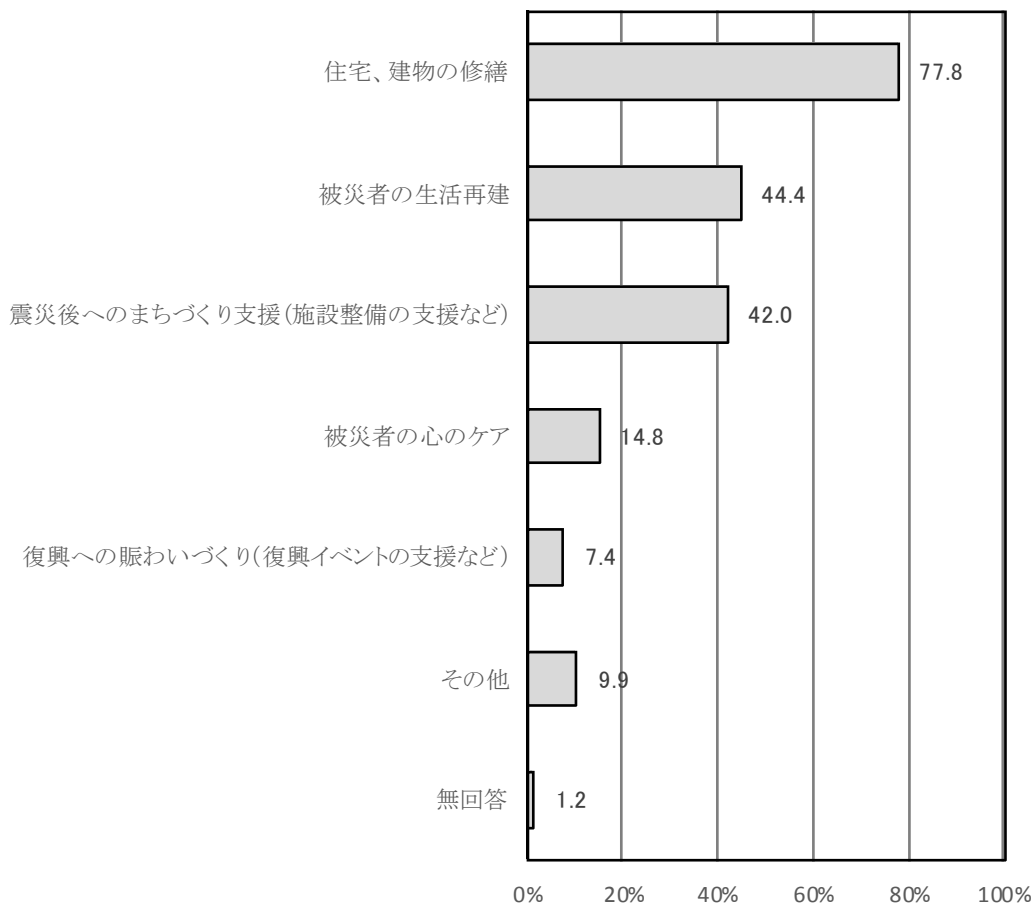
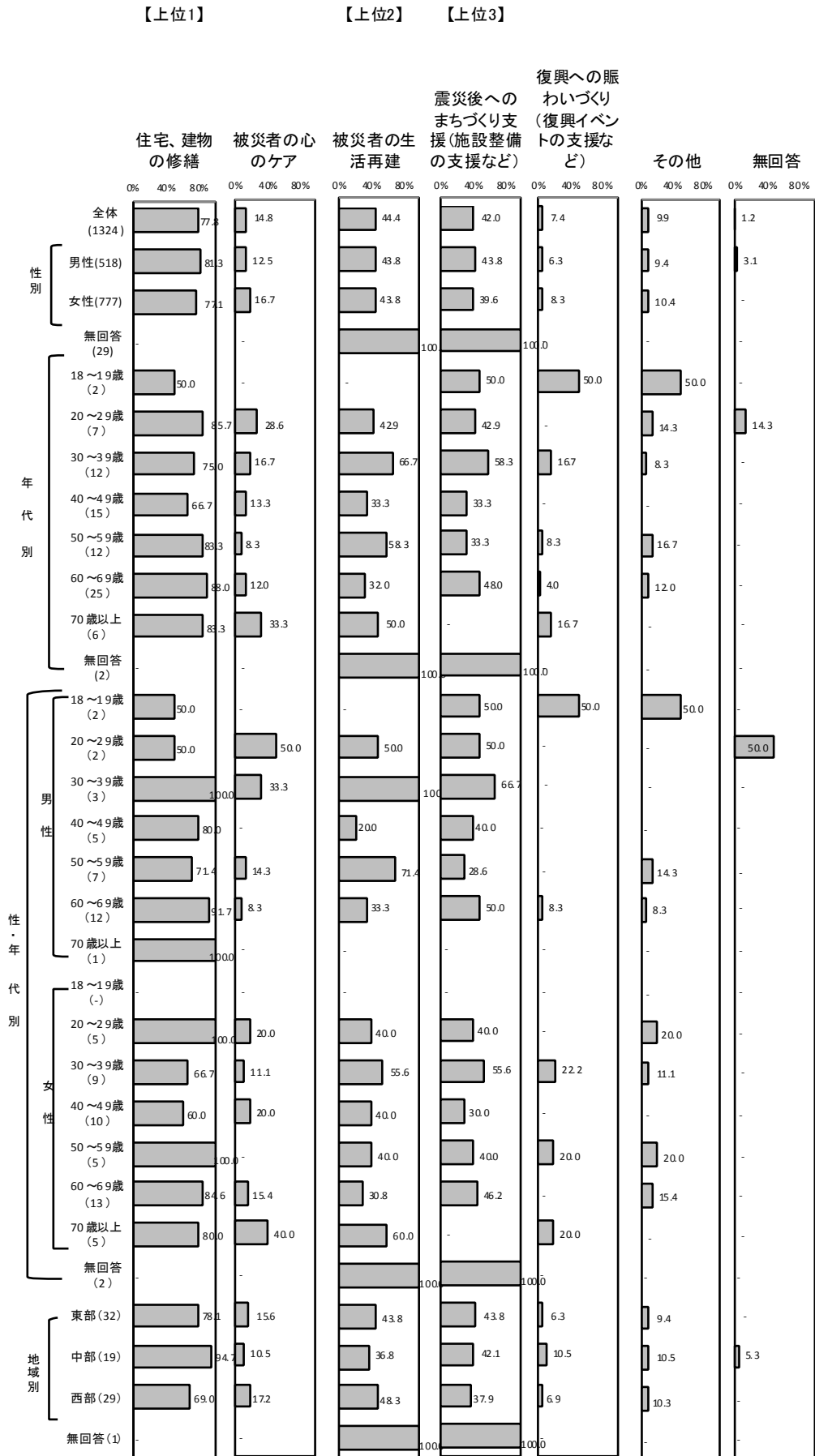


図 38 どの項目が進んでいないと思うか



問12 鳥取県中部地震からの復興の総仕上げを図るため、生活復興支援の体制整備、住宅修繕の支援、災害時の体制整備、商店街活性化への支援等を創設しました。

今後、さらなる復興を進めていく上で、どのような取組の強化が必要と思いますか。

(〇はいくつでも)

～「被災者住宅再建等の支援」「生活復興支援の体制整備」「災害時の福祉支援体制の整備」が高い～

今後、さらに復興を進めていく上で、どのような取組の強化が必要かについて、「被災者住宅再建等の支援」が56.6%ともっとも割合が高くなっている。次いで、「生活復興支援の体制整備」が52.8%、「災害時の福祉支援体制の整備」が48.0%となっている。

年代別で見ると、20～30歳代で「復興への賑わい再生支援」「地域防災力強化の取組」、30～40歳代で「被災者住宅再建等の支援」、60～70歳代で「災害時の福祉支援体制の整備」が高い。

性・年代別で見ると、男性の20～30歳代で「復興への賑わい再生支援」「地域防災力強化の取組」、60～70歳以上で「生活復興支援の体制整備」「災害時の福祉支援体制の整備」の割合が高くなっている。女性では20～30歳代で「復興への賑わい再生支援」「地域防災力強化の取組」「被災者住宅再建等の支援」の割合が高くなっている。

図39 さらなる復興を進めていく上で、強化が必要な取組
(n=1,324)

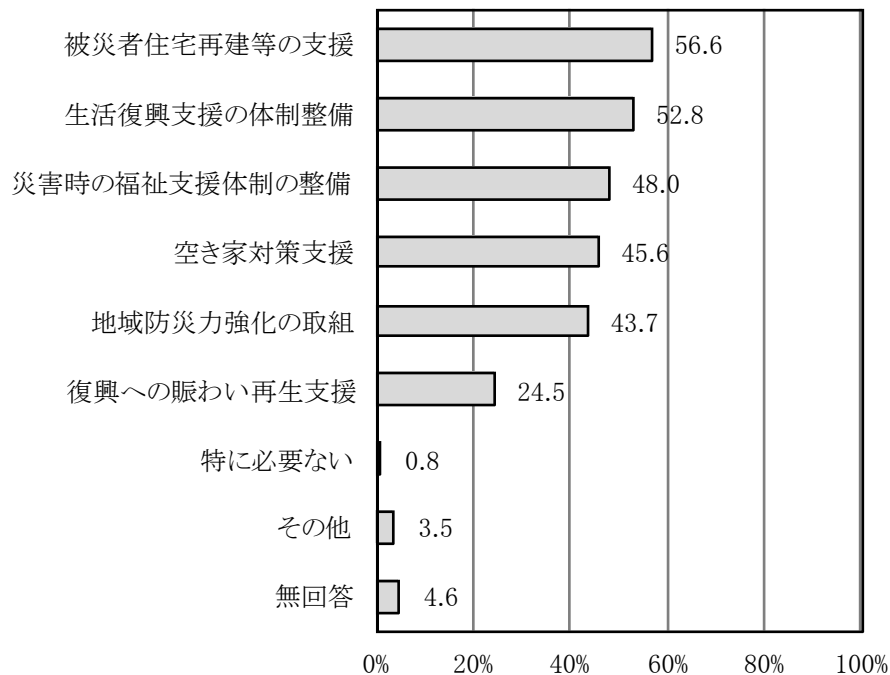
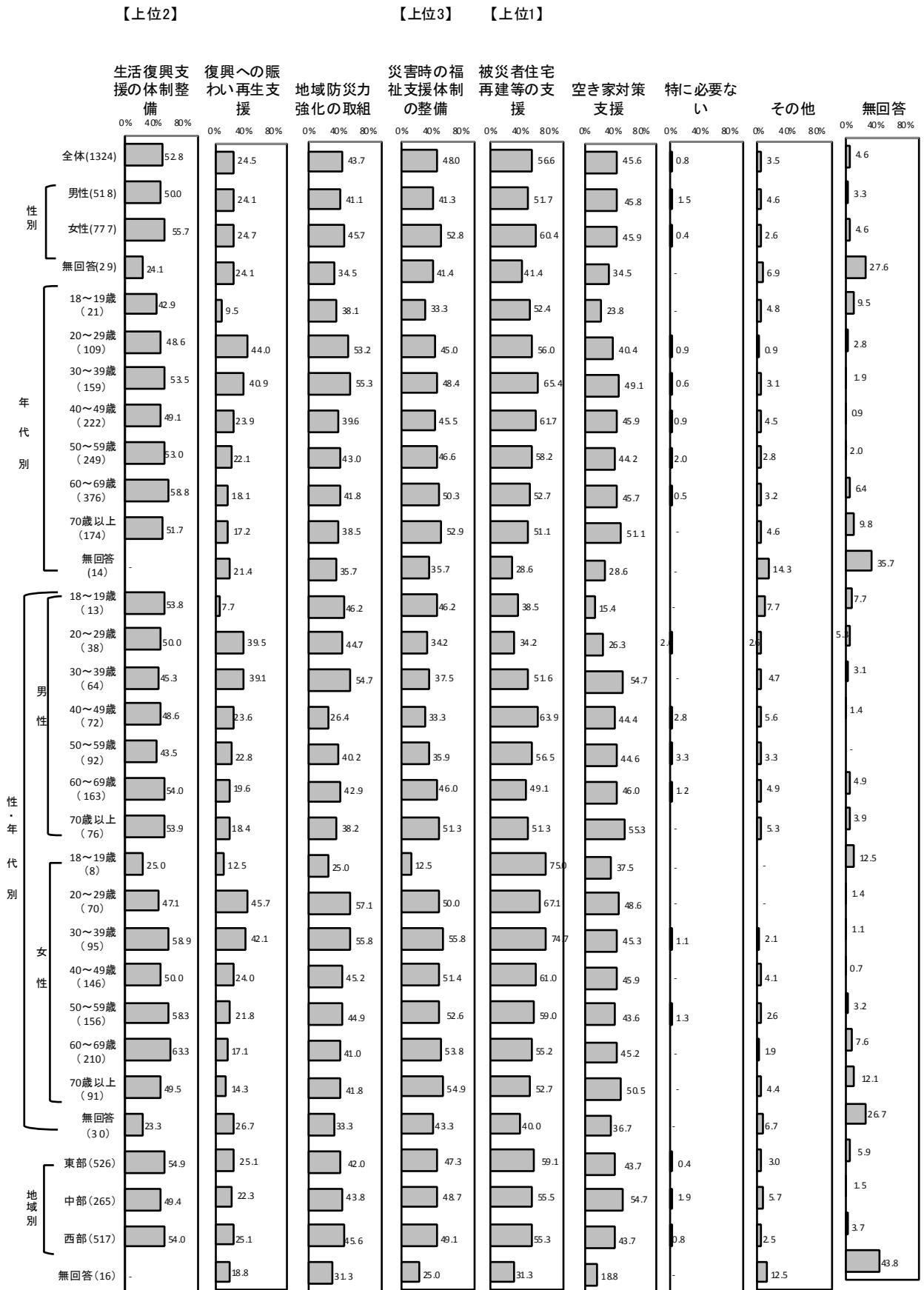


図 40 今後、さらなる復興を進めていく上で、そのような取組の強化が必要とありますか



<減災・防災対策について>

問13 中部地震発生により防災意識が高まっている中、県では「支え愛マップ」づくりを核とした地域の防災力強化を進めていますが、「支え愛マップ(※)」についてご存知ですか。

※支え愛マップづくりとは、地域住民が主体となって、独居高齢者、要介護者及び障がい者などの支援を要する者に対する災害時の避難支援の仕組みづくりのことをいいます。

～「支え愛マップ」を知っているは約2割～

「支え愛マップ」について、「知っている」が18.3%と約2割程度にとどまっている。一方、「知らない」が79.6%と約8割となっている。

年代別で見ると、60～70歳以上で「知っている」割合が高くなっている。

性・年代別で見ると、男性は年代が上がるに連れ、「知っている」割合が高くなっている。女性は60歳代が他の年代に比べ「知っている」割合が高い。

地域別にみると、中部が他の地域に比べ「知っている」割合が高くなっている。

図41 支え愛マップ 認知度
(n=1,324)

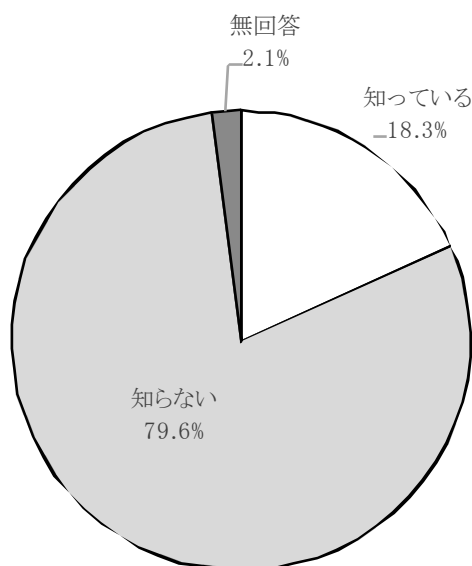
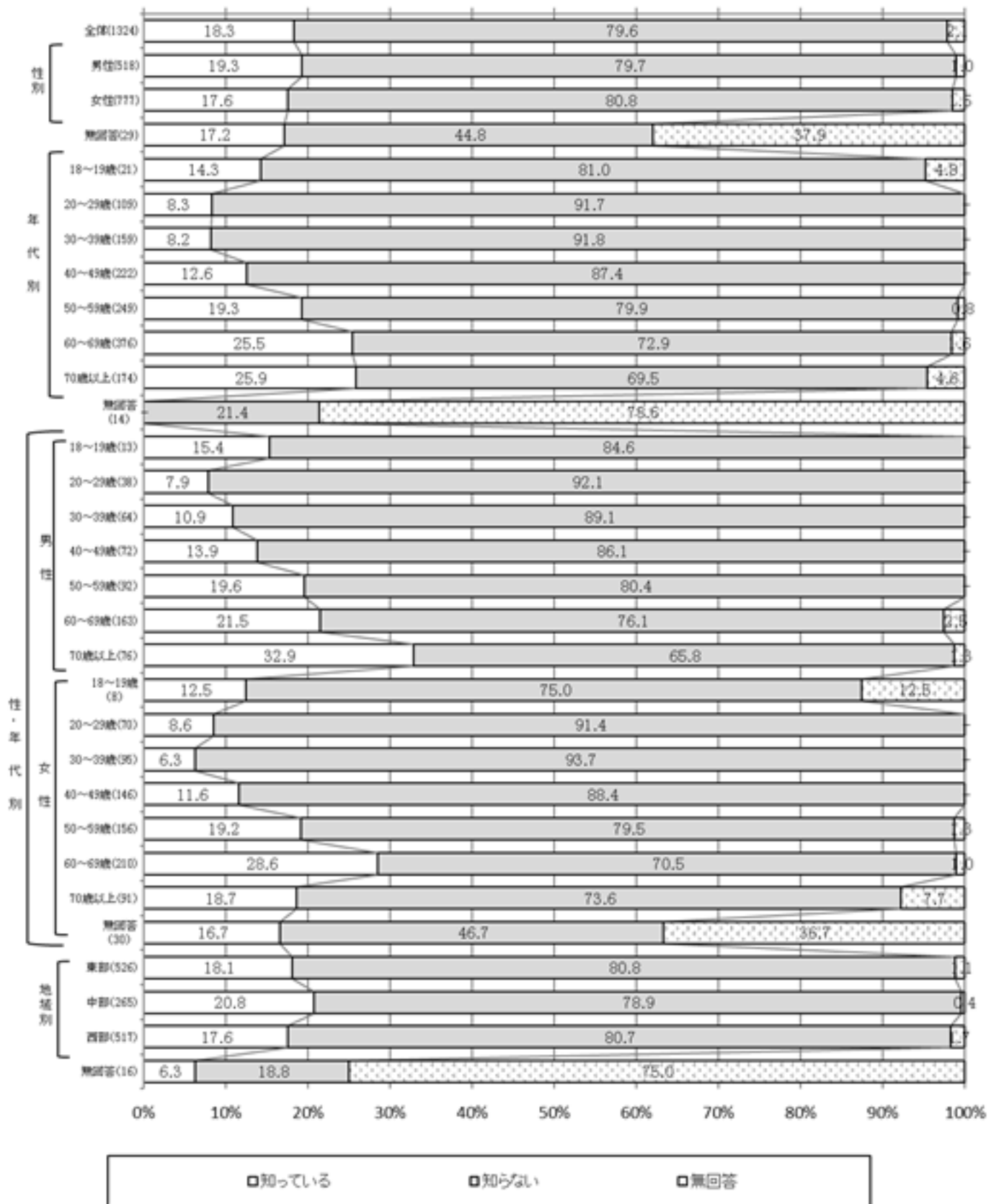


図42 「支え愛マップ」について知ってるか



問14 (問13で「1 知っている」と回答された方)にお聞きします。(〇はいくつでも)

1) どのような媒体で知られましたか。

～「広告紙」がもっとも多い～

「支え愛マップ」をどのような媒体で知ったかについては、「広告紙」が 57.9%と最も多く、次いで「地域の会議参加時」が 41.7%、「チラシ」が 12.4%となっている。

年代別でみると、40～70 歳以上は「広告紙」、60～70 歳以上「地域の会議参加時」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の 40～50 歳代で「広告紙」が高く、50～70 歳以上で「地域の会議参加時」の割合が高くなっている。女性の 60～70 歳以上で「広告紙」「地域の会議参加時」の割合が高くなっている。

図43 支え愛マップをどのような媒体で知ったか
(n=242)

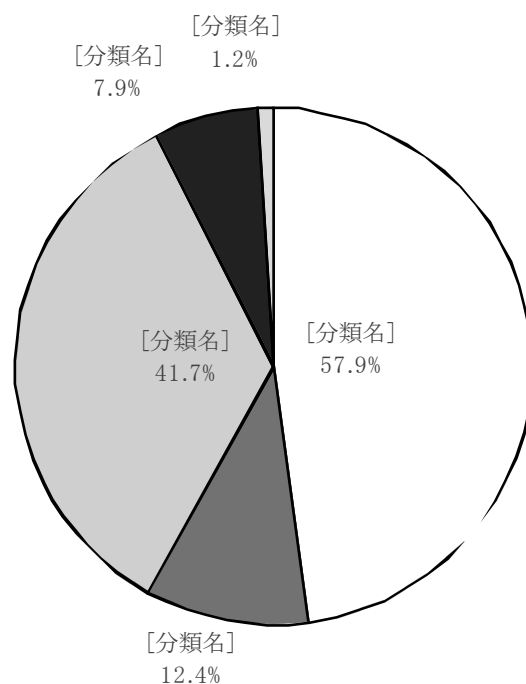
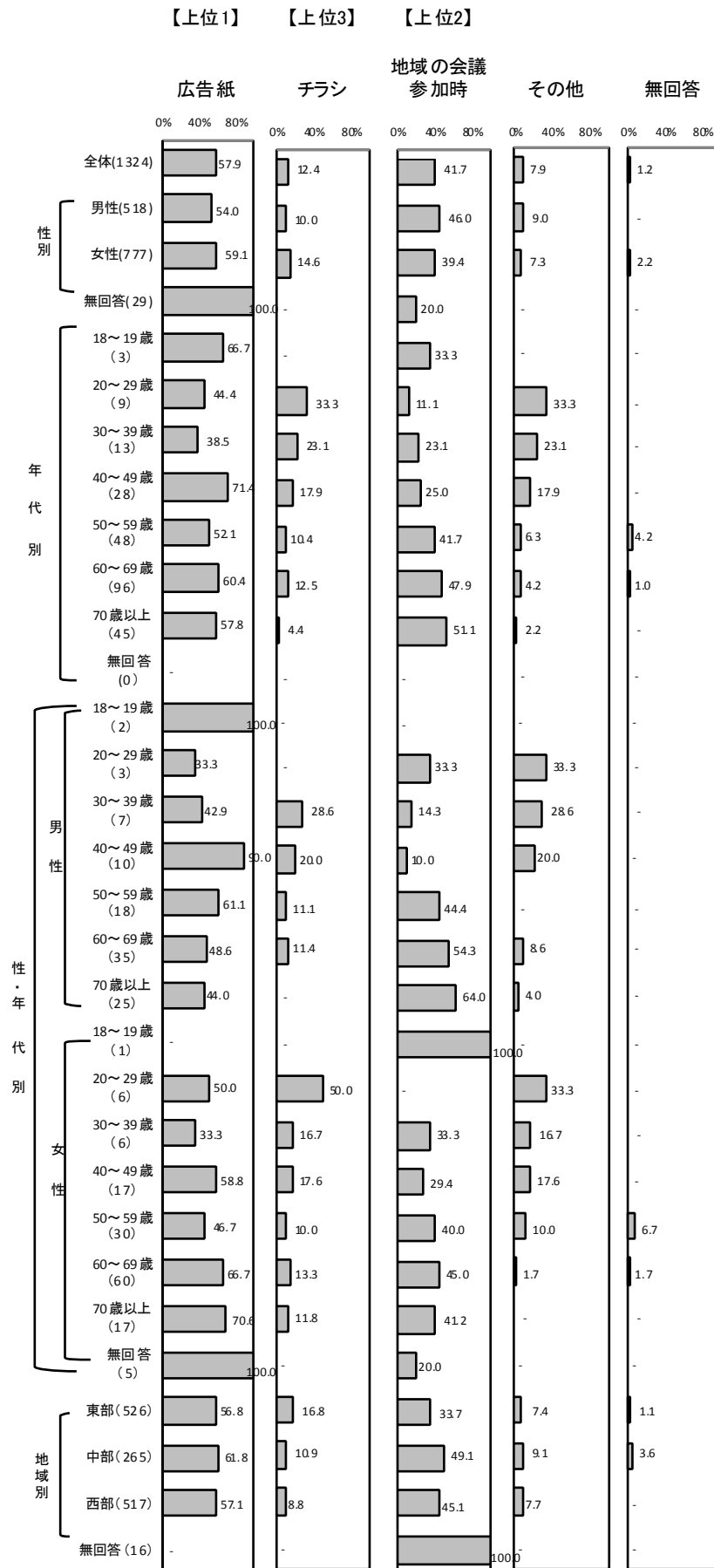


図 44 どのような媒体で知ったか



2)「支え愛マップ」づくりに参加したことがあるか

～「参加したことがある」「今後、参加したい」が約5割～

「支え愛マップ」づくりに参加したことがあるかについて、「参加したことがある」が17.4%、「今後、参加したいと思う」が31.4%と、参加に対して前向きな人が48.8%と約5割ある。一方、「参加は考えていない」が34.3%と約3割となっている。

年代別でみると、「参加したことがある」「今後、参加したいと思う」は、50歳代が高くなっている。

性・年代別でみると、「参加したことがある」「今後、参加したいと思う」は、男性は50～60歳代が高く、女性は40～50歳代、70歳以上が高くなっている。

図45 「支え愛マップ」づくりに参加したことがあるか(n=242)

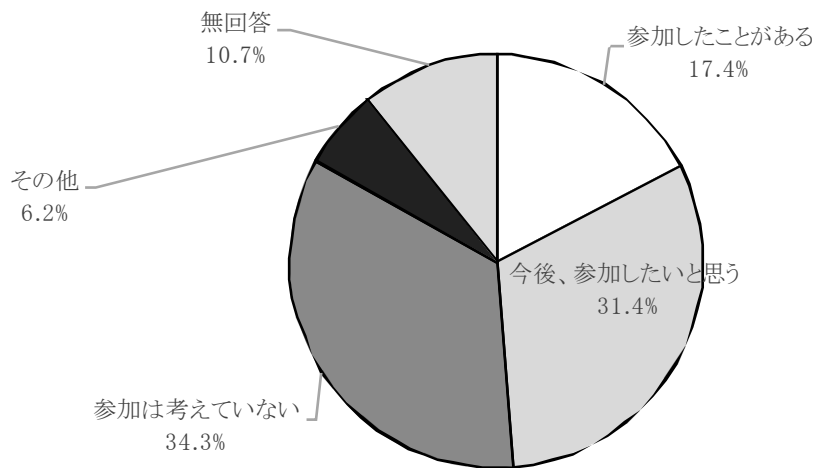
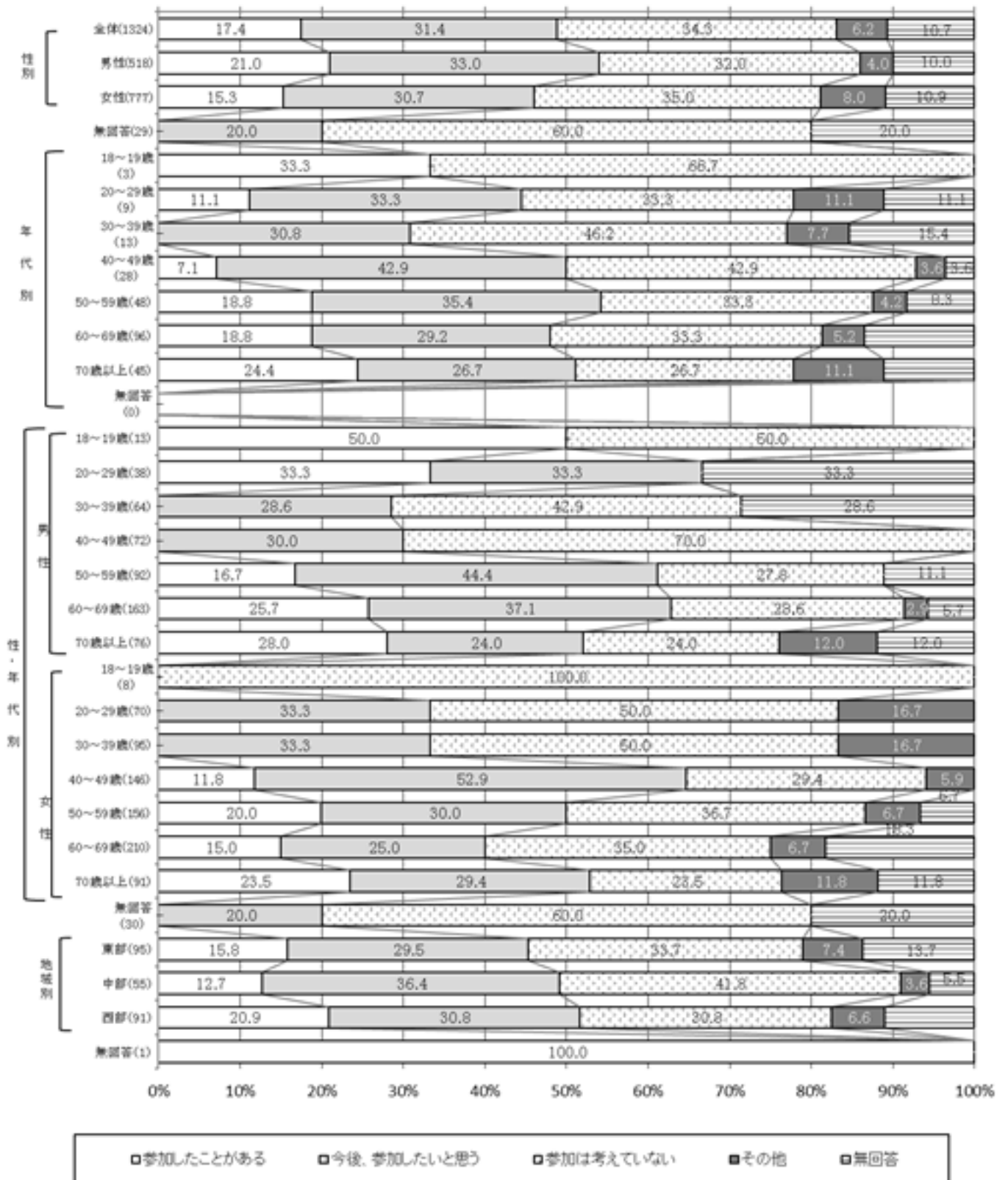


図46 「支え愛マップ」づくりに参加したことがあるか



問15 今後の対策として大切だと思うことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

～「避難所設備等の充実(避難所用点字マップの配備やタブレットによる意志の疎通、避難所のトイレ整備など)」がもっとも高い～

今後の対策として大切だと思うことは何だと思えるかについて、「避難所設備等の充実(避難所用点字マップの配備やタブレットによる意志の疎通、避難所のトイレ整備など)」が66.0%が最も高く、次いで「地域における避難体制づくり(支え愛マップづくりを通じた体制づくり)」が57.9%、「地域防災や避難所運営に携わる地域のリーダー育成」が36.9%となっている。

年代別でみると、20～30歳代は「地域における避難体制づくり(支え愛マップづくりを通じた体制づくり)」、20～40歳代は「避難所設備等の充実(避難所用点字マップの配備やタブレットによる意志の疎通、避難所のトイレ整備など)」が高くなっている。

性別・年代別でみると、男性の20～50歳代は「避難所設備等の充実(避難所用点字マップの配備やタブレットによる意志の疎通、避難所のトイレ整備など)」の割合が高い。女性の30歳代、50歳代は「地域における避難体制づくり(支え愛マップづくりを通じた体制づくり)」、20～40歳代は、「避難所設備等の充実(避難所用点字マップの配備やタブレットによる意志の疎通、避難所のトイレ整備など)」の割合が高くなっている。

図47 今後の対策で大切だと思うこと(n=1,324)

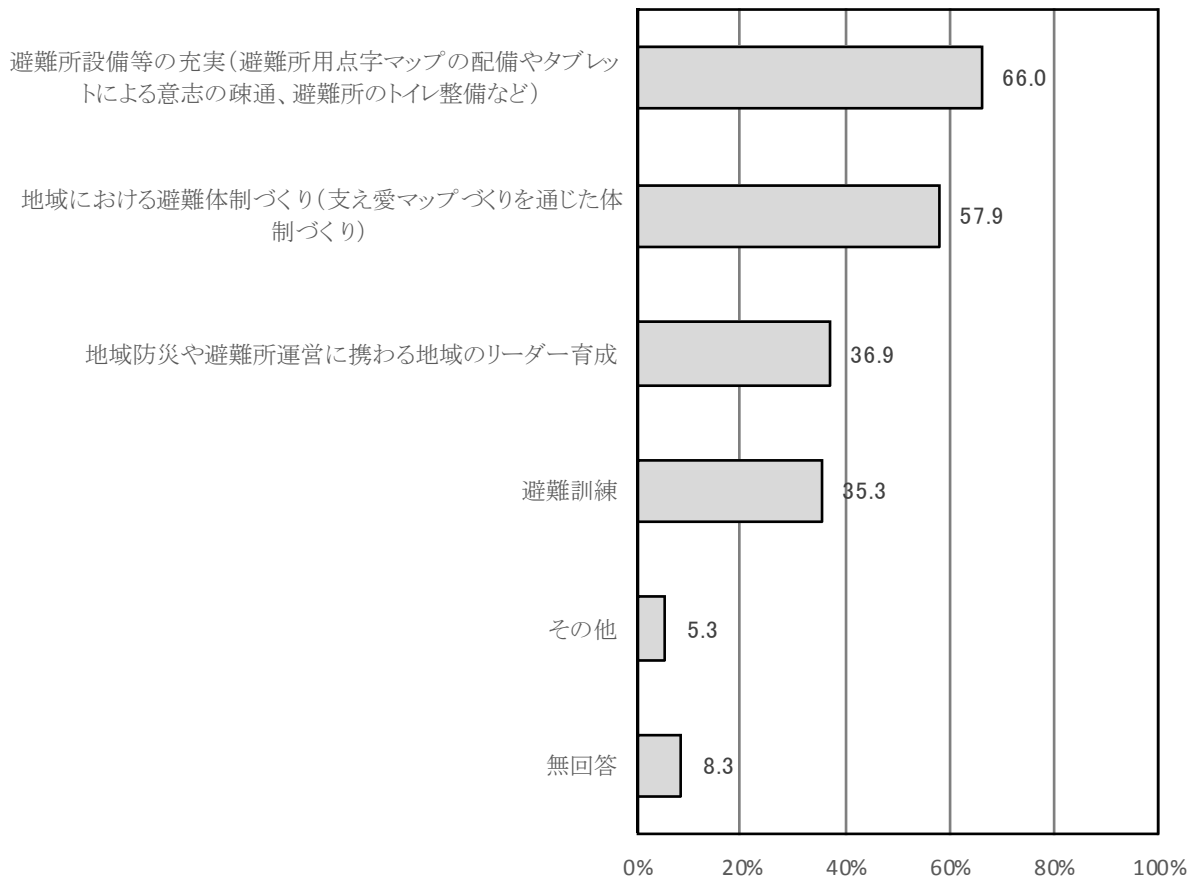
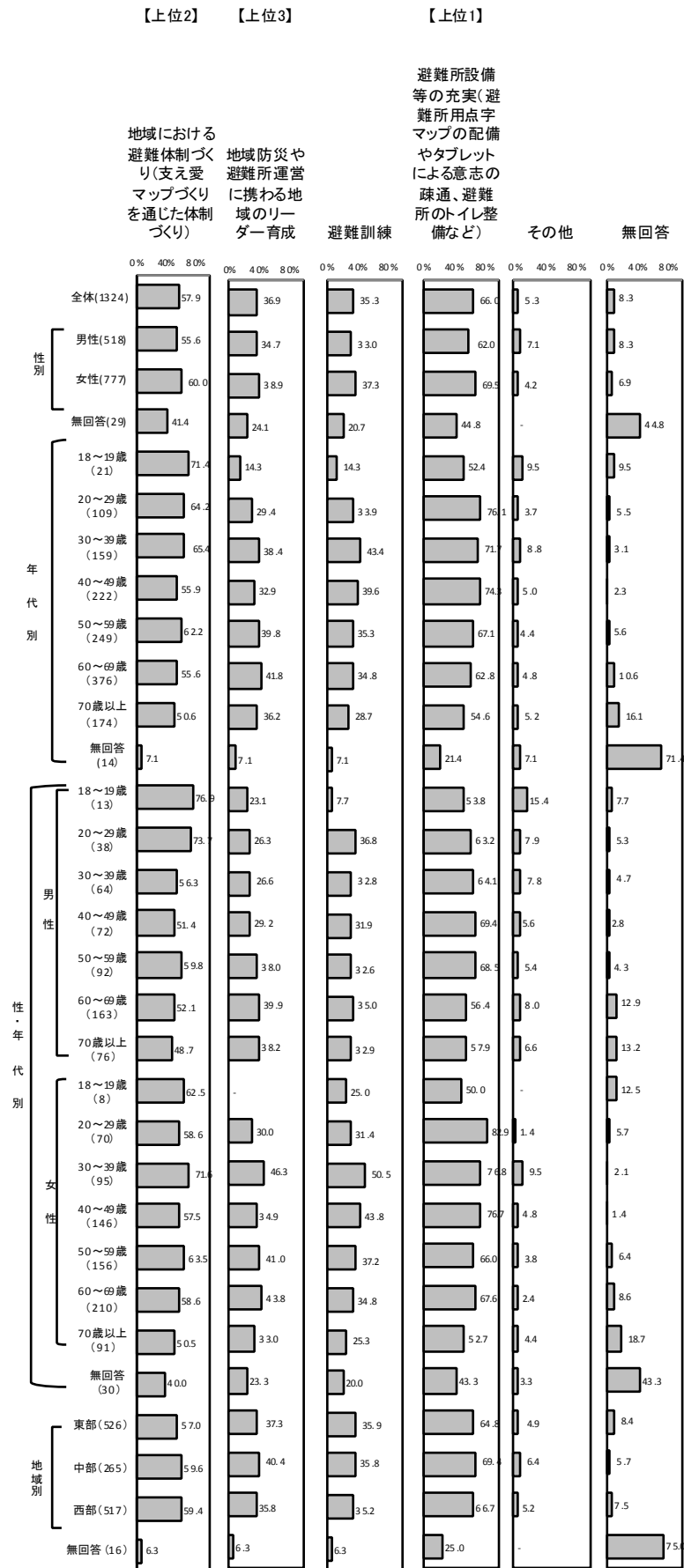


図 48 今後の対策として大切だと思うことは何だと思いますか



<あなたの幸福度について>

問16 鳥取県に暮らして、あなたは今どの程度「幸せ」ですか。

～「5普通」以上が約8割～

鳥取県に暮らしてあなたの幸福度について、「5普通」が24.3%と最も高く、「7」が19.3%、「8」が17.2%、「6」が12.4%と続き、「5普通」以上の回答は約8割である。

図49 鳥取に暮らして、「幸せ」ですか(n=1,324)

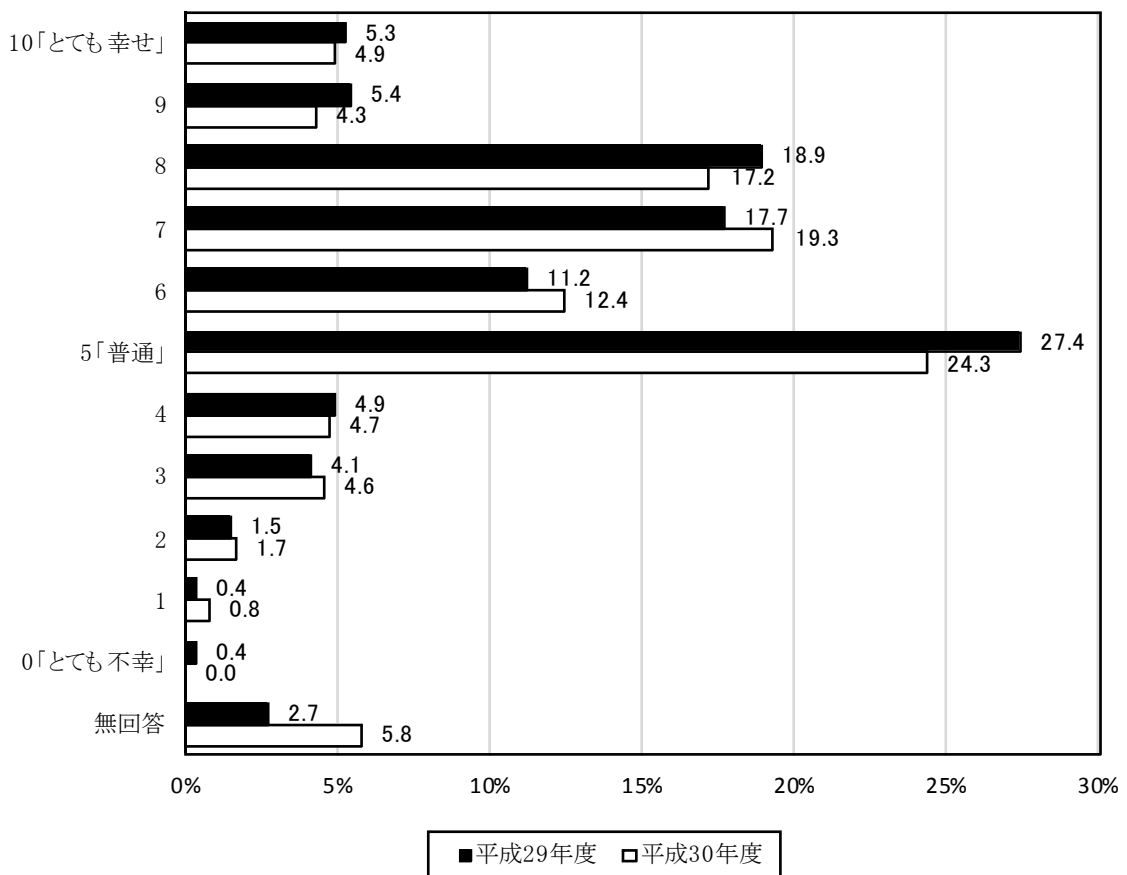
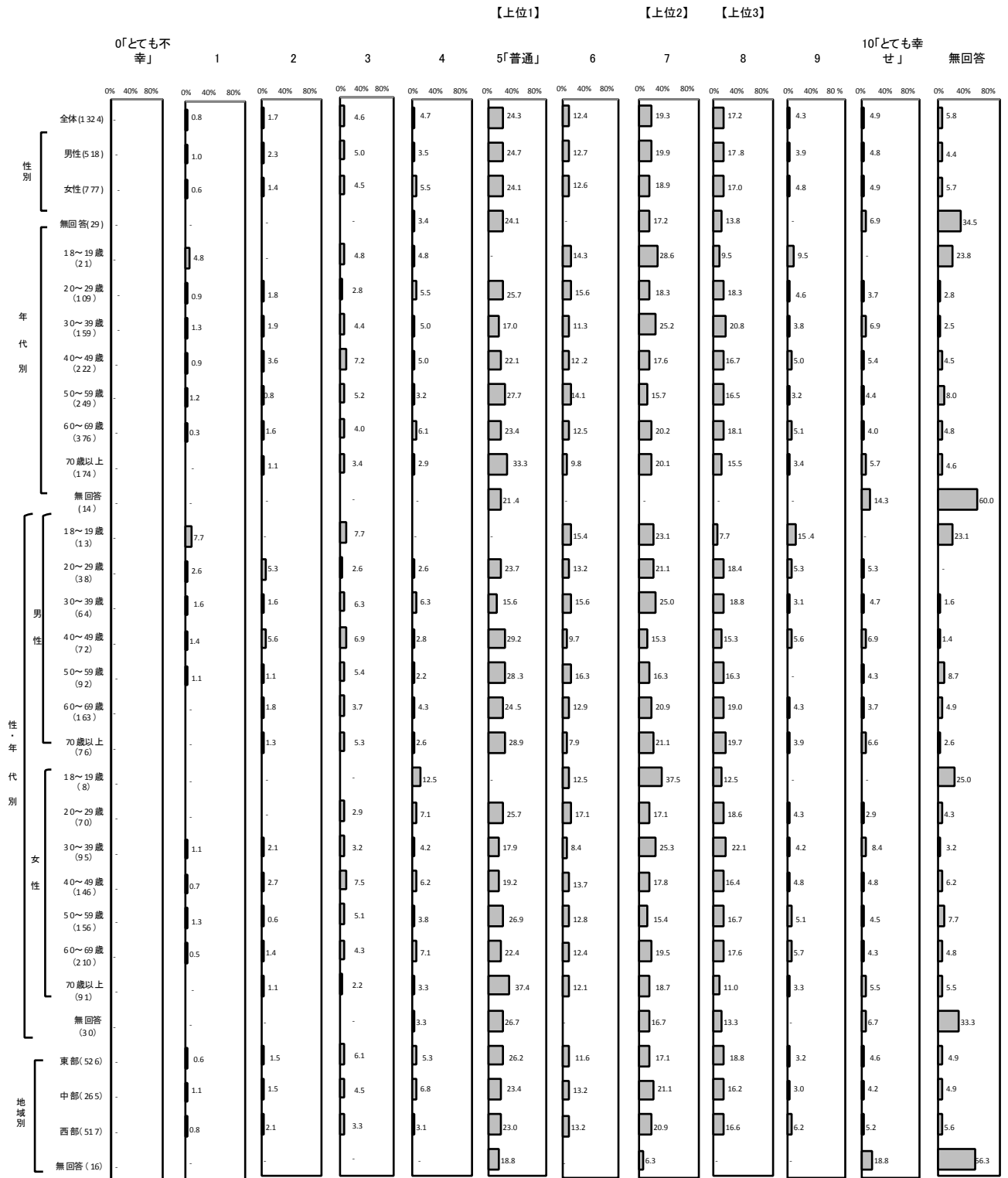


図 50 鳥取県に暮らして、「幸せ」ですか



問17 あなたの「幸福度」を判断するときに、あなたが重視することはなんですか。

(〇はいくつでも)

～「家計の状況」「自身の健康の状況」が6割以上～

幸福度を判断するときに重視することは、「家計の状況」が65.0%と最も高く、次いで「自身の健康の状況」が63.7%、「家族関係」が55.6%と続いている。

平成29年度と比較してみると、平成30年度では「就業の状況」「精神的なゆとり」が共に7.2ポイント増加、職場(学校)の人間関係が6.7ポイント増加している。

年代別でみると、30～70歳以上は「家計の状況」、50～70歳以上は「自身の健康の状況」、10～30歳代は「自由な時間(充実した余暇)」「友人関係」、30歳代は「家族関係」が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の20～50歳代は「精神的なゆとり」、30～40歳代は「家族関係」が高くなっている。一方、女性の20～30歳代は「自由な時間(充実した余暇)」「仕事(学校)の充実度」「精神的なゆとり」「友人関係」「職場(学校)の人間関係」が高くなっている。

図51 「幸福度」の判断で重視することは(n=1,324)

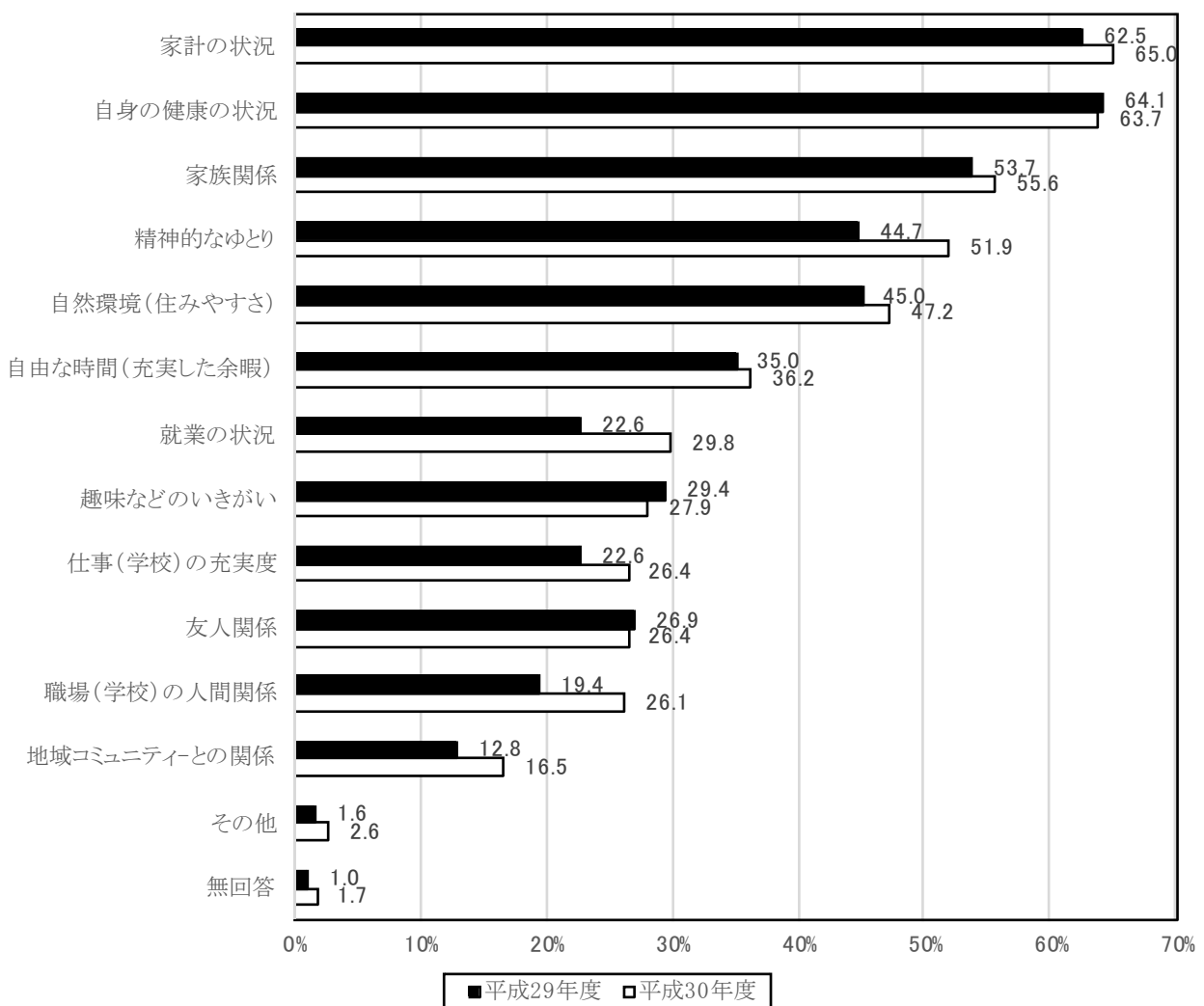
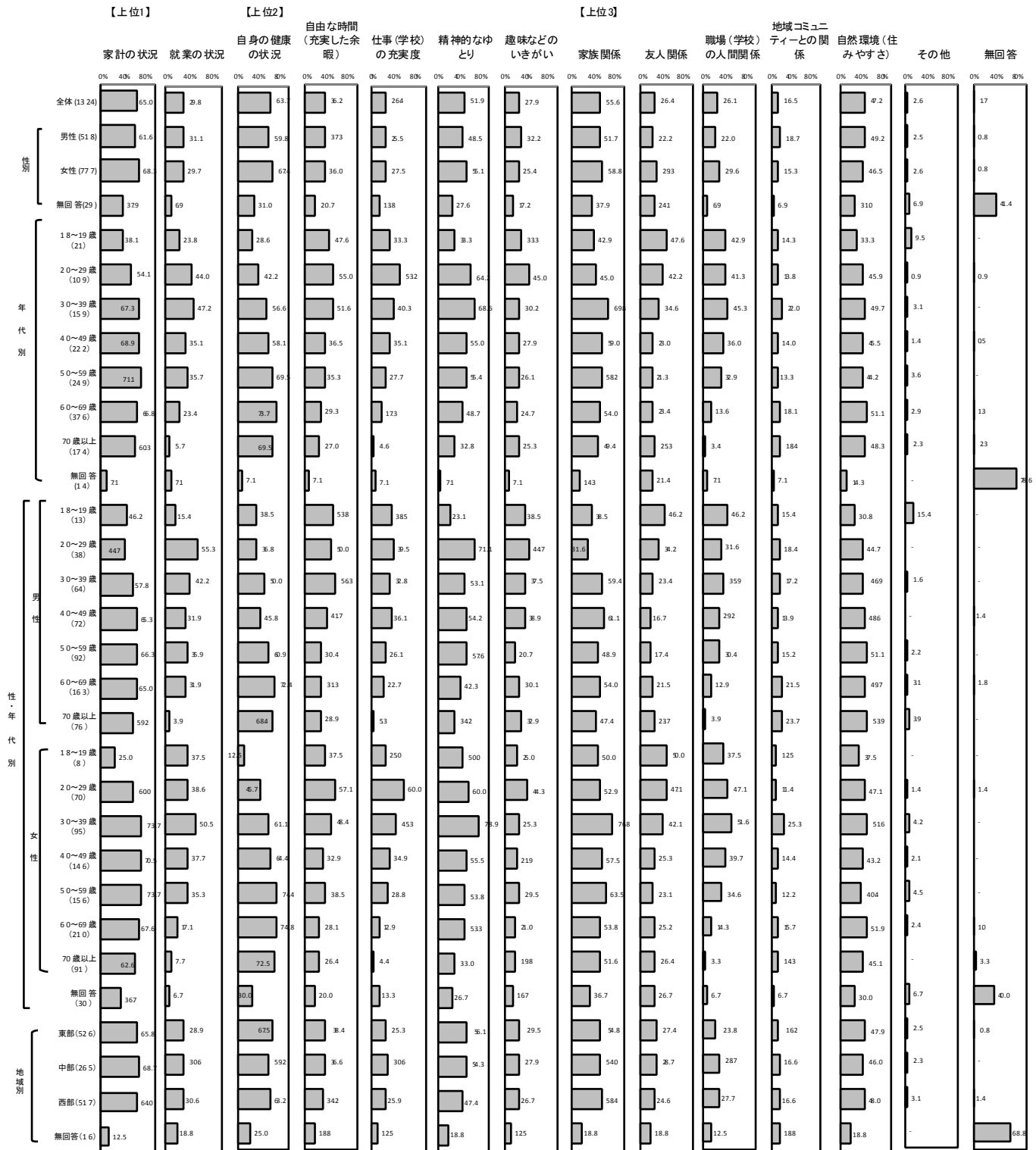


図 52 「幸福度」の判断で重視すること



県民の多くの方々からたくさんのご意見をいただきましたので、一部を紹介いたします。

問7 女性が出産後も離職することなく、子育てと仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策は何だと思いますか。

○まずは行政が中小企業の実態を把握し、今の施策がどのような影響、変化があるか考えてください。 ◆(40～49歳 女性 鳥取市)
○夫婦で話し合うべき。女性が必ずしも離職することが不幸ではなく、子どもと向き合う時間が増え 幸せと感じる生活と気持ちが必要です。 ◆(60～69歳 女性 鳥取市)
○保育施設の充実、夜間の保育の充実、病児保育の拡大。公立の学童保育をもっともっともっと充実 してほしい。 ◆(40～49歳 女性 米子市)
○自宅でもできる仕事を与える。託児所の充実。 ◆(70歳以上 男性 中部地区)
○家庭内の子どもや要介護者の有無にかかわらず、「時間外労働時間」をきちんと確保する。「定時あ がり」キャンペーン。 ◆(30～39歳 女性 米子市)

問8 介護と仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策は何だと思いますか。

○介護施設や介護サービスを充実させ、その利用者への経済支援を考えることが大切だと思います。 ◆(60～69歳 女性 米子市)
○仕事をしている間に安心して介護者を預けられる場所(公民館や福祉センター)が地域ごとにあり、 それを行政に推進していただけたら助かります。理想はボランティアの方が見てくれることですが、 低料金だと安心します。 ◆(30～39歳 女性 西部地区)
○年金問題も含めて、高齢者が何の不便も感じず、安心して暮らせるまちづくりを推進することです。 ◆(20～29歳 男性 東部地区)
○自宅介護は24時間なので、核家族(少人数)だと大変です。その上で、雇用主及び同僚の理解と 協力、急な場合でも預かっていただける施設の整備、元気な時に申請が出来るように介護認定の予 備登録制度が必要だと思います。 ◆(60～69歳 男性 鳥取市)
○雇用主と従業員の理解と支援が必要です。 ◆(40～49歳 女性 倉吉市)

問9 イクボス・ファミボスの取組を推進するために、行政が行うべき必要な施策は何だと思えますか。

<p>○イクボス・ファミボス成功企業の紹介、認知アップを通して新卒・転職希望者を増やす。企業側のメリットも作る。</p> <p>◆(20～29歳 女性 境港市)</p>
<p>○一般市民に対してもイクボス・ファミボスとは何なのか理解してもらえるようパンフレットを作る。学校に通っている学生に対しても理解してもらえるよう授業の1コマを使って説明する。</p> <p>◆(20～29歳 女性 倉吉市)</p>
<p>○目的がイクボス・ファミボスの取組になっており効果検証がなされないことが問題です。</p> <p>◆(60～69歳 男性 鳥取市)</p>
<p>○今の職場では有給休暇を取得するのも大変です。企業側に指導して頂きたい。声が届くように、相談の窓口を増やしてください。</p> <p>◆(60～69歳 女性 西部地区)</p>
<p>○幅広い年齢層の理解が得られるように。行政・自治体・家庭へと支援、広報がまだまだ必要だと思う。</p> <p>◆(50～59歳 女性 中部地区)</p>
<p>○一時的な取組で終わることがないように、優良事例の調査、周知をしていき、常に意識できる環境作りが大切だと思います。</p> <p>◆(30～39歳 女性 鳥取市)</p>
<p>○育児参加に理解ある企業の経営者が非常に少ない。この辺りの理解推進が必要だと思う。</p> <p>◆(60～69歳 男性 倉吉市)</p>
<p>○行政の職員が分かりやすく取組を実行し、メディアで取り上げ、イクボス・ファミボスが当たり前だという意識を高めていく。</p> <p>◆(30～39歳 女性 西部地区)</p>
<p>○企業も個人も自分が直面しなければ必要性を考えない。現状と問題の解決をどのようにすべきかを県民、企業、雇用者等が参加、業種を越えて研修し、それぞれが自分の問題としてとらえる事が必要です。</p> <p>◆(60～69歳 男性 西部地区)</p>
<p>○家族のつながりを強くする為の勉強会などを開くのも良いのではと思います。</p> <p>◆(60～69歳 女性 東部地区)</p>
<p>○実際に上司が育児、介護の経験(周りでそういったことがあったのかではなく、少しでも体で知る・実体験)がなければ本当の意味での上司の理解にはならないと思います。部下が相談できる、介護休暇取得できるようなモデルに上司がなるべきです。</p> <p>◆(30～39歳 男性 鳥取市)</p>

問11 鳥取県中部地震からの復興・復旧について「4.あまり進んでいない」「5.全く進んでいない」と回答された方のご意見。

<p>○まだブルーシートで覆われた屋根を目にすると復興が進んでないと感じる。</p> <p>◆(20～29歳 女性 鳥取市)</p>
--

- 独居老人とか老人夫婦世帯と、家庭内に若者がいる世帯とで震災復興住宅、建物の修繕にずいぶん差が出てきています。地域社会での支え合いに頼る他ないと考えています。
◆(60～69歳 男性 鳥取市)
- 地震の規模が他県の災害に比べて少なかったからか、復興の為の協力が少ないと感じます。今現在でもブルーシートをかけたままの家は残っていますし、修理等費用面に悩む人もいます。他県の人からすれば中部地震はすでに忘れ去られている気がします。
◆(50～59歳 女性 倉吉市)

問12 鳥取県中部地震からの復興の総仕上げを図るため、生活復興支援の体制整備、住宅修繕の支援、災害時の体制整備、商店街活性化への支援等を創設しました。今後、更なる復興を進めていく上で、どのような取組の強化が必要と思いますか。

- 鳥取県西部地震の際、危険建造物の撤去、石垣の再建に公的資金援助があり励みになった。
◆(60～69歳 男性 西部地区)
- 西部地震の時、県と市町村からの支援金で自宅を修理し早く日常の生活が取り戻せました。全国で初のケースでした。個人の資産であっても県民の税金であっても、日常生活が取り戻せる様、適正に税金を使い早く復興してほしいと望みます。中部地震の生活復興支援、住宅修繕の支援について、融通のある対応がしてあるでしょうか。
◆(60～69歳 男性 西部地区)

問14 (1) 「支え愛マップ」についてどのような媒体で知られましたか。

- 地域で作成したというニュースを見た。
◆(40～49歳 女性 東部地区)
- 区長さんから話を聞いた。
◆(20～29歳 男性 西部地区)
- 県社会福祉協議会のチラシで知った。
◆(30～39歳 女性 鳥取市)
- ボランティアの防災研修会で知った。
◆(50～59歳 女性 東部地区)

問14 (2) 「支え愛マップ」づくりに参加したことがある方のご感想

- やはりリーダー的存在となる制度を理解し周りの人を引っ張っていける人材が必要だと感じた。ありがたいことに我地域には存在した。
◆(50～59歳 男性 中部地区)
- 地域住民の実態が改めてよく理解できた。
◆(60～69歳 男性)
- 要支援者の人数、家、また多い地域、少ない地域が一目でわかる
◆(60～69歳 男性 東部地区)

<p>○大勢の人で語り合うので知らない情報がわかるようになった。</p> <p>◆(50～59歳 男性 西部地区)</p>
<p>○地域の人顔が見える取組として必要。共助の体制作りの一歩としては効果的です。</p> <p>◆(60～69歳 男性 鳥取市)</p>
<p>○もっとこの取組を広めるよう広報する。</p> <p>◆(60～69歳 男性 米子市)</p>
<p>○地域の人と話し合いができた。顔を知ってもらうことができ災害に遭った時、助け合うことにつながると思い良かった。</p> <p>◆(60～69歳 女性 中部地区)</p>
<p>○私の住んでいる地区では、3年前「支え愛マップ」＝「防災マップ」を作成し、独居高齢者、要介護者、障がい者も含めて全世帯を地図上に記載しているが、これに対して「個人情報」を理由に反対する人がいると知り、驚くと同時に残念に思った。</p> <p>◆(70歳以上 男性 米子市)</p>
<p>○毎年見直しするので地区内の様子が良くわかっていいと思う。</p> <p>◆(60～69歳 女性 西部地区)</p>
<p>○防災に対してもう少し色々な面に対して参加したい。</p> <p>◆(60～69歳 男性 境港市)</p>
<p>○住んでいる自分の地域で防災マップ作りを公民館活動の一環として行なっている。民生児童委員の仲間たちと一緒に避難訓練も行っている。</p> <p>◆(60～69歳 女性 米子市)</p>
<p>○独居、高齢者世帯はもちろんの事、いっどこで起こるかかわからない災害に対して、個人情報などの兼ね合いもあるかとは思いますが緊急連絡先(2か所以上)を聞いておく必要があると思いました。</p> <p>◆(50～59歳 女性 中部地区)</p>

問 15 減災・防災対策について：今後の対策として大切だと思うことは何だと思いますか。

<p>○防災でも即避難しなければいけない災害と、外に出ればかえって危ない場合があり、夜中と昼とでも違います。どうやって正確な情報を出すか、市町村との連携対策が必要です。</p> <p>◆(60～69歳 男性 中部地区)</p>
<p>○地域ごとに防災グッズを常備する。地域ごとにリーダーをおき、速やかに避難する。</p> <p>◆(30～39歳 女性 西部地区)</p>
<p>○自分で身を守る意識を持ってもらうようにする取組です。</p> <p>◆(30～39歳 男性 米子市)</p>
<p>○過去の災害経験が役に立たなくなっている。想定した以外の事が起きて何を持って想定し対策をするのか?かと言って過剰設備になってしまい予算を使いすぎてもダメ、今後対応に難しい課題だと思うが、何をするかではなく、何をしたいかだと思う。</p> <p>◆(40～49歳 男性 境港市)</p>

<p>○災害が起こった後の帰宅難民の解消です。(実際家に帰れるのが1時間ぐらだったのが、道路渋滞等で3倍になったので)</p> <p>◆(18～19歳 男性 鳥取市)</p>
<p>○個人の防災に対する意識を高めていかないと命を守ることができないと思います。</p> <p>◆(50～59歳 男性 鳥取市)</p>

問18 あなたがもっと「幸福」になるために、鳥取県に今後期待することがあれば自由にお書きください。

<p>○今は移動に車を利用していますが、いずれ乗れなくなることでしょう。山間地にも高齢者、障がい者が住みやすくなるために移動手段となる100円バスとか移動スーパーの普及を！！</p> <p>◆(70歳以上 女性 中部地区)</p>
<p>○雪が多く降る地域の道路整備、融雪や除雪の体制を強化してほしいです。</p> <p>◆(20～29歳 女性 中部地区)</p>
<p>○企業確保、雇用拡大による若者の県外転出しない地域づくりです。</p> <p>◆(50～59歳 男性 米子市)</p>
<p>○農業をしている人が高齢化して田んぼの世話ができない所が増えている。今後、田畑を維持できないと思う。農業支援を。</p> <p>◆(50～59歳 女性 西部地区)</p>
<p>○不便なく日常生活を過ごせる環境作りが必要です。今後車の運転が出来なくなると即、生活が出来なくなる。公共交通網の整備充実が必要です。</p> <p>◆(60～69歳 男性 西部地区)</p>
<p>○今後、老親の介護が大きな問題となってくる。自宅で介護したくてもできない状況も出てくる。安心して預けられる施設の増設やスタッフの確保(給料や待遇面改善)を考えてもらえたら嬉しいです。安心して。</p> <p>◆(50～59歳 女性 鳥取市)</p>
<p>○子どもが出来た後の生活に不安があります。子育て支援か、男性の育児休暇が出来るよう企業にも理解してもらいたいです。</p> <p>◆(30～39歳 男性 鳥取市)</p>
<p>○障がい者支援をより充実してほしい。A型、B型事業所の増設。社会参加の場を増やしてほしい。</p> <p>◆(20～29歳 男性 倉吉市)</p>
<p>○これからは災害に対しての備えに税金を使ってほしい。私の住んでいる所も山崩れ、川の氾濫等たくさん問題が起こりうる場所が多くある。長い目で鳥取県を支えていただくのが私の幸福につながります。</p> <p>◆(60～69歳 女性 西部地区)</p>

<p>○災害がある度に、今の日常は当たり前ではないのだと気づかされます。想定外のことを想像することは難しいですが、防災の知識、体制の周知、共有は大切だと思います。学校教育で「人権」を学ぶように、「防災」を小中高と学ぶ時間があっても良いと思います。そして大人も学ぶ機会として町内会を通して周知し、情報の共有ができるようになればと思います。</p> <p>◆(30～39歳 女性 鳥取市)</p>
<p>○子育て支援は充実していると思うが、不妊治療の助成金をもっと増やしてほしい。出生率が平均より高い鳥取県なので、子育て支援の充実は良いことだと思うが、なかなか子どもができない人にとっては辛い。治療費の助成金を上げてほしいことを切実に願います。</p> <p>◆(30～39歳 女性 鳥取市)</p>
<p>○狭い地域で親しいようできて「限界集落化」している今、高齢一人住まいの方は孤立している。高齢者が無理なく移動できる範囲で、公民館やコミュニティセンターみたいなのがあったらいい。</p> <p>◆(50～59歳 女性 鳥取市)</p>

自由意見

<p>○鳥取県は自然環境・食文化・治安の面で他府県と比べても優れているように感じます。そんな鳥取県の人々が減少傾向にあるのが心配です。都会、大都市にあるような派手さはないけれど住んでみたい、行ってみたいと思えるような鳥取県としていただきたいと思います。</p> <p>◆(60～69歳 男性 鳥取市)</p>
<p>○健常者も障がい者も皆が地域で自分らしく住みたい、生きたい、暮らしていきたいと願っております。しかし何らかの理由により経済的に辛い状況にあることもあります。精神障がい者の方の働きたい、世の中に加わりたいと思っている人達に働く場所を。短時間でも働ける場を何らかの施策をしていただき、広めて推進していただきたいと思います。</p> <p>◆(70歳以上 女性 中部地区)</p>
<p>○介護への不安がたくさんあります。どこに相談するのか、どういう考え方があるのか、どんな選択肢があるのか、費用面、実際の利用者の方やスタッフの方の声などまとめて教えてくれるようなものがあればいいなと思います。高齢者の方が人のお世話になるばかりではなくやりがいや元気に過ごせる場がこれからも増えるとよいなと思います。</p> <p>◆(30～39歳 女性 鳥取市)</p>
<p>○県が発展するためには交通の充実が必要だと思う。人や物が移動するには道路が重要。素晴らしい自然があろうとも交通の便が良くなければ他県から人は来ないでしょうし良い製品や農作物が作られても運ぶのに時間がかかっては受け入れてもらえない。山陰自動車道の早期完成、県中部から中国自動車道への自動車専用道路の実現が必要です。</p> <p>◆(60～69歳 男性 倉吉市)</p>
<p>○中山間地域の農林業のリーダーを育成することです。農業・林業ができる若者を募集して、公費で農林業の技術知識を学ぶ機会を作り、地域のリーダーを育てあげて軌道に乗るまで県や市町村が手助けして育てあげていくことが重要です。</p> <p>◆(70歳以上 男性 米子市)</p>

<p>○もっと若者が興味を持つような政治をしてほしい。私の周りには選挙に参加する人がとても少ないです。「行ったって誰だか分からない」「どんな政策をしているのか分からない」「誰がしたって変わらないでしょ」そう口にしています。せつかく選挙権が18歳からあるのだから若い世代にも伝わるような工夫が必要だと思う。</p> <p>◆(20～29歳 女性 倉吉市)</p>
<p>○文化、芸術、スポーツ振興にもっと力を入れてほしいです。特に地元の宝を大切に！ガイナール鳥取というプロスポーツを更に盛り上げてほしいです。</p> <p>◆(50～59歳 女性 米子市)</p>
<p>○中山間地のインフラが不十分です。中山間地で若者が定住する為には企業誘致などの前に生活基盤となる水道、除雪、下水などの早急なインフラ整備が必要です。不便で働きにくいので、より便利な都市へ転出するという構図を変えていくには、まずは十分なインフラの整備に注力すべきと考えます。</p> <p>◆(30～39歳 男性 東部地区)</p>
<p>○大自然の営みを大切にしたい規範にした農業、漁業、林業を進めてほしいです。例えば農業では、有機無農薬栽培の野菜、漁業では栽培漁業や養殖業「つくり育てる漁業」ではなく、海から採れる魚を。鳥取の豊かな自然を活かした産業を推進してください。</p> <p>◆(60～69歳 女性 鳥取市)</p>
<p>○農業・医療・介護・保育に AI・ICT・IT 等の導入と補助金制度が必要です。人口減少の為、賃金の不安定な農業や、賃金の安い介護や保育やその施設で働く清掃員、調理員の低賃金労働者を含む支援も必要です。</p> <p>◆(40～49歳 男性 西部地区)</p>
<p>○西日本豪雨で他県では多大な災害が起きました。幸い鳥取県は被害も少なかった様です。いつ災害に見舞われても、被害が最小限に食い止められるような対策は必須です。コンパクトな県だからこそ可能な災害に強い、きめ細やかな対策を望みます。</p> <p>◆(60～69歳 女性 米子市)</p>
<p>○高齢化が進む中で、高齢者にとって住みやすいまち、安全なまち、安心なまちにすべきだと思う。高齢者が何に不便を感じているのか、何を求めているのか、耳を傾けるべきだと思う。</p> <p>◆(20～29歳 女性 倉吉市)</p>
<p>○7月の大雨の時、鳥取市に避難指示が出ていたが、鳥取市も広くて本当に自分たちの地域も避難しないとけなかつたのか分かりませんでした。細かな地域の指示があれば助かります。またあの大雨の中、避難しようとした時、我家には足が悪い障がい者がいますが、どう動いていいかもわかりませんでした。そのような時、地域の方の声掛け、お手伝いでもあれば助かりますが、避難する際のそういったマニュアルがあれば良いかなと思います。</p> <p>◆(50～59歳 女性 鳥取市)</p>

○長年住んでいた山陽から、鳥取、米子と移り住んで気づいたことですが、鳥取県は住みやすい所だなと思います。自然、食の豊かさはもちろんですが、奥ゆかしい人柄は、山陽地方には少ない美德です。山陰新幹線や、北陸地方に伸びる高速道があれば、観光客の移動時間の短縮になり、もっと深く鳥取の良さを内外にアピールできるだろうなと思います。新幹線は今すぐ、どうこうとは行きませんが、中国五県自由に移動できるルートがあることが災害時のリスクを軽減する一つの方法かなと考えます。人や物が循環する社会は少子化対策にも有効だと思います。

◆(60～69歳 女性 米子市)